

第 II 編

溫 排 水

1. 調査概要

本報告書は、「女川原子力発電所環境放射能及び温排水測定基本計画」に基づき、令和7年度第1四半期（令和7年4月1日～6月30日）に実施した温排水調査結果のうち、水温・塩分調査及び水温調査（モニタリング）結果について報告するものであり、それ以外の調査結果については、令和7年度報告書としてとりまとめの上、別途報告する。

(1) 調査機関

調査担当機関	
宮城県	宮城県水産技術総合センター
東北電力(株)	女川原子力発電所

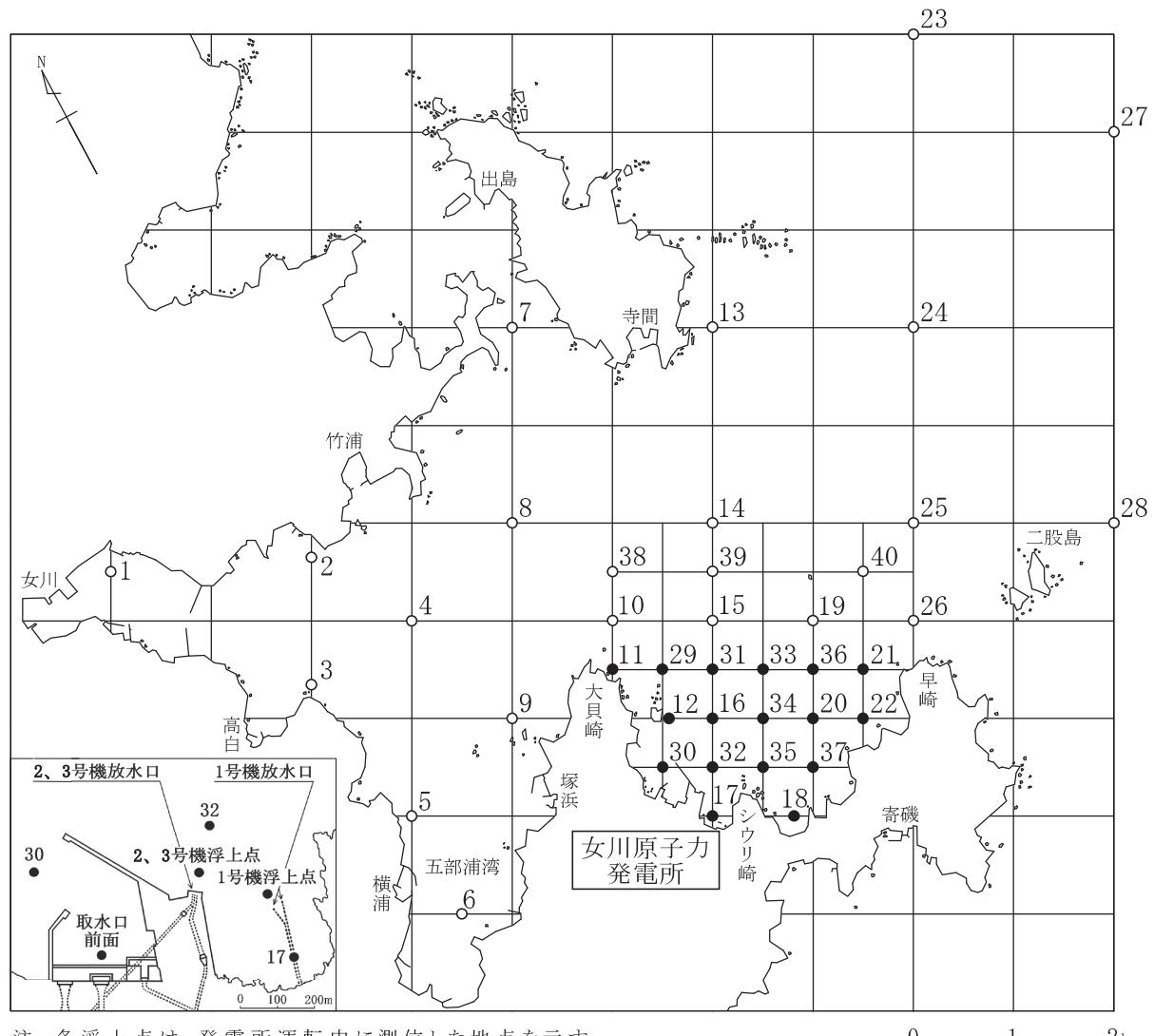
(2) 調査項目等

調査事項	調査項目	宮城県	東北電力(株)
		地点数	地点数
水温・塩分調査	水温・塩分	43	43
水温調査（モニタリング）	水温	6	9

2. 調査結果の概要

(1) 水温・塩分調査

水温・塩分調査においては、大貝崎と早崎とを結ぶ線の内側の入り江を前面海域、その他を周辺海域として記述することとする。



凡例	● 前面海域の調査点
	○ 周辺海域の調査点

図-1 水温・塩分調査位置

当該四半期の水温・塩分調査で得られた結果からは、温排水の影響と考えられる異常な値は観測されなかった。
なお、調査結果は以下に示す通りである。

ア. 水温

(ア) 4月9日 (表-1、3、図-2、3)

前面海域の水温は8.0～9.6°Cの範囲、1号機浮上点の水温は8.7～9.3°Cの範囲、2、3号機浮上点の水温は8.3～9.5°Cの範囲にあった。一方、周辺海域の水温は7.4～10.1°Cの範囲にあり、前面海域の水温は周辺海域の水温の範囲内にあった。なお、昨年同期の前面海域の水温は13.9～14.4°C、周辺海域の水温は13.8～14.9°Cの範囲にあった。水温水平分布、St. 17～St. 29、St. 17～St. 15、St. 17～St. 33及びSt. 17～St. 21ラインの水温鉛直分布では、浮上点付近に異なる水温分布は見られなかった。今回の調査では、いずれも過去同期の水温の範囲内であった。

また、浮上点及び浮上点付近水温と取水口前面との較差については、1号機浮上点において-0.4～0.5°C、2、3号機浮上点において-0.2～0.6°C、St. 17においては-0.4～0.5°C、St. 32においては-0.3～0.4°Cであり、全て過去同期の範囲内にあった。

(イ) 5月13日 (表-2、3、図-4、5)

前面海域の水温は8.9～11.8°Cの範囲、1号機浮上点の水温は10.4～11.6°Cの範囲、2、3号機浮上点の水温は11.7～12.0°Cの範囲にあった。一方、周辺海域の水温は8.9～11.8°Cの範囲にあり、前面海域の水温は周辺海域の水温の範囲内にあった。なお、昨年同期の前面海域の水温は14.1～15.6°C、周辺海域の水温は14.3～16.5°Cの範囲にあった。水温水平分布、St. 17～St. 29、St. 17～St. 15、St. 17～St. 33及びSt. 17～St. 21ラインの水温鉛直分布では、2、3号機浮上点付近にやや高い水温分布が見られた。今回の調査では、いずれも過去同期の水温の範囲内にあった。

また、浮上点及び浮上点付近水温と取水口前面との較差については、1号機浮上点において0.3～0.5°C、2、3号機浮上点において0.6～1.6°C、St. 17においては0.1～0.3°C、St. 32においては-0.1～1.0°Cであり、全て過去同期の範囲内にあった。

イ. 塩分

(ア) 4月9日 (表-4)

塩分は32.0～33.7の範囲にあり、水平分布の較差は0.1～1.6、鉛直分布の較差は0.1～1.6の範囲にあって、海域全体でほぼ同じ値であった。

なお、昨年同期の塩分は30.9～34.4の範囲にあった。

(イ) 5月13日 (表-5)

塩分は30.8～33.6の範囲にあり、水平分布の較差は0.4～2.3、鉛直分布の較差は0.6～2.7の範囲にあって、海域全体でほぼ同じ値であった。

なお、昨年同期の塩分は33.6～34.4の範囲にあった。

表-1 水温鉛直分布(干潮時)

単位: ℃
調査年月日: 令和7年4月9日
測定者: 宮城県

		周辺海域												前面海																														
St.	m	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	13	14	15	19	23	24	25	26	27	28	38	39	40	11	12	16	17	18	20	21	22	29	30	31	32	33	34	35	36	37	洋1	洋2, 3	取水口前面
0.5	0.5	9.5	9.4	9.5	9.4	9.6	9.4	9.5	9.4	9.1	9.3	9.7	9.0	9.6	9.4	8.8	9.6	9.5	9.6	9.6	9.5	9.6	9.5	9.5	9.5	9.4	9.3	9.3	9.2	9.2	9.3	9.2	9.3	9.2	9.3	9.2	9.3	9.2	9.3	9.2	9.3	9.2	9.3	9.7
1	1.01	9.5	9.5	9.4	9.6	9.4	9.6	9.5	9.4	9.1	9.3	9.7	9.0	9.6	9.4	8.8	9.6	9.5	9.6	9.6	9.5	9.6	9.5	9.5	9.4	9.3	9.3	9.2	9.4	9.5	9.6	9.4	9.4	9.3	9.3	9.2	9.2	9.3	9.3	9.2	9.3	9.5		
2	9.9	9.5	9.5	9.4	9.6	9.4	9.6	9.5	9.4	9.1	9.4	9.6	9.0	9.6	9.2	9.4	8.8	9.6	9.5	9.7	9.6	9.4	9.4	9.3	9.2	9.3	9.3	9.2	9.4	9.5	9.4	9.4	9.3	9.3	9.2	9.2	9.3	9.5						
3	9.8	9.5	9.5	9.4	9.3	9.5	9.3	9.7	9.5	9.4	9.1	9.4	9.5	9.4	9.4	9.0	9.3	8.8	9.4	9.2	9.7	9.6	9.1	9.2	9.3	9.2	9.3	9.2	9.4	9.3	9.3	9.2	9.3	9.2	9.2	9.3	9.6							
4	9.6	9.4	9.2	9.3	9.2	9.0	9.0	9.4	9.1	9.5	9.1	9.2	9.1	9.4	9.2	8.8	9.1	9.0	9.5	9.5	8.6	9.0	9.1	9.2	9.0	9.2	9.3	9.2	9.3	9.5	9.4	9.3	9.2	9.2	9.2	9.5								
5	9.3	9.0	8.9	9.1	9.2	8.9	9.1	9.0	8.8	9.2	9.0	9.5	9.0	9.2	8.8	9.2	9.4	9.2	8.4	8.9	9.4	9.4	8.5	9.0	9.0	9.1	9.2	9.3	9.2	9.1	9.0	9.1	9.0	9.2	9.5									
7	8.9	8.6	8.8	8.8	8.9	8.6	8.7	8.7	8.8	8.9	8.6	8.9	8.5	8.5	9.4	8.8	8.2	8.6	8.5	9.0	9.0	8.5	8.6	8.7	9.1	9.0	9.2	9.2	9.3	8.9	8.6	8.6	8.9	9.0	9.1	9.0	9.2	9.5						
10	8.7	8.4	8.7	8.7	9.0	8.4	8.6	8.5	8.3	8.4	8.4	8.7	8.3	8.3	8.8	8.5	8.1	8.1	8.4	8.4	8.4	8.5	8.6	8.5	9.1	8.8	9.1	9.1	8.5	8.6	8.5	8.5	8.6	8.7	8.8	9.0	8.7	9.2						
15	8.5	8.2	8.4	8.5	8.7	8.3	8.3	8.6	8.4	8.1	8.2	8.2	8.4	8.1	8.1	8.2	8.3	7.8	8.0	8.3	8.1	8.2	8.3	8.3	8.2	8.2	8.2	8.3	8.3	8.3	8.4	8.4	8.3	8.4	8.5	8.7	8.3							
20		8.1			8.2	8.1		8.1	8.0	8.1	8.1	8.0	8.0	8.0	8.1	7.4	8.0	8.1	8.2	8.0	8.1																							
海底+2m	(水深:m)	8.5	8.1	8.6	7.9	8.3	8.2	7.9	7.8	8.6	7.8	7.9	7.8	7.7	7.8	7.7	7.0	7.6	7.8	7.8	7.7	8.4	8.6	8.0	9.1	8.8	7.9	7.9	8.1	8.4	7.8	7.8	8.2	7.8	8.4	8.7	8.3	8.6						
	(17.5)	(24.0)	(10.0)	(34.5)	(20.0)	(31.5)	(37.5)	(17.0)	(34.0)	(28.5)	(10.5)	(38.5)	(36.0)	(45.0)	(42.5)	(30.5)	(63.5)	(41.5)	(39.0)	(41.0)	(36.0)	(16.0)	(11.5)	(25.5)	(12.0)	(1.1.5)	(27.5)	(28.5)	(28.0)	(23.0)	(14.0)	(34.0)	(17.5)	(35.5)	(30.5)	(22.0)	(29.0)	(18.5)	(16.0)	(11.5)				

注1 St.はステーションの意で測定地点を示す。

2 「/」は海底に達したため測定不能箇所を示す。

3 過去は昭和59年7月から令和6年度までを表す。

過去同期(昭和59年7月から令和6年度までの)の測定範囲

周辺海域4.6~14.9℃

1号機浮上点[4.9~14.4℃] 2、3号機浮上点[5.7~14.3℃]

範囲内の最大値

範囲内の最小値

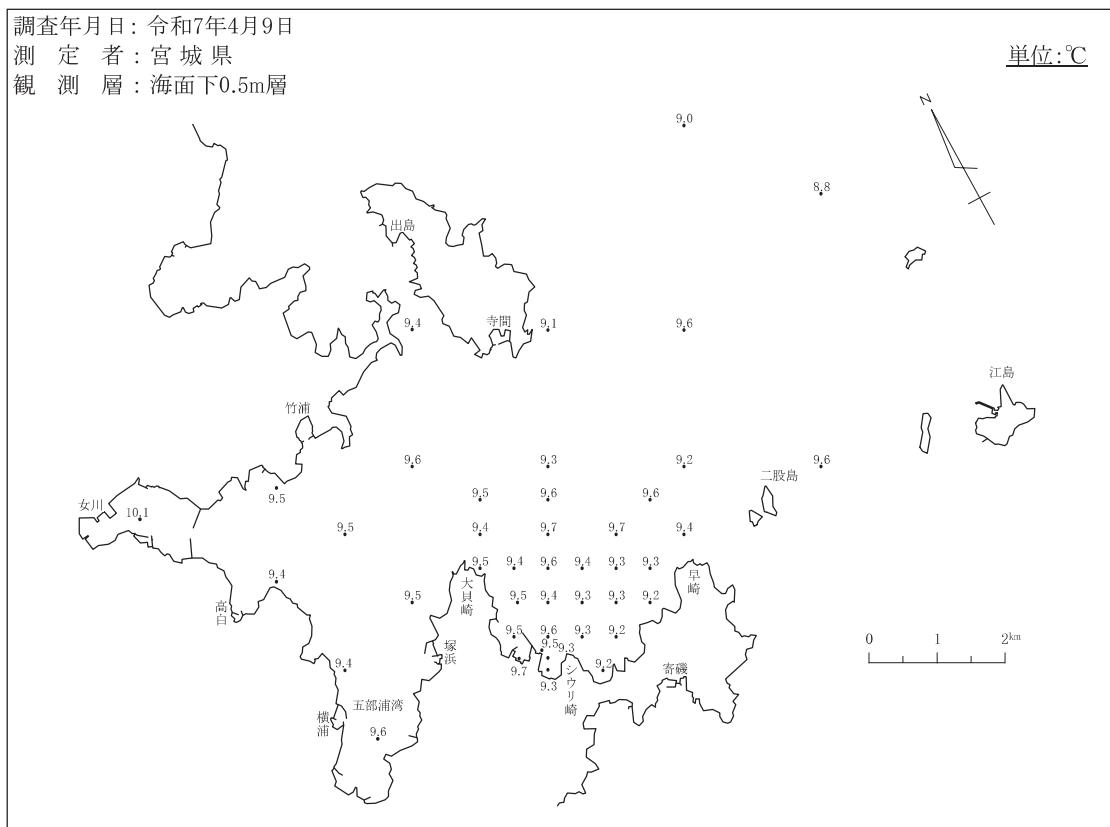
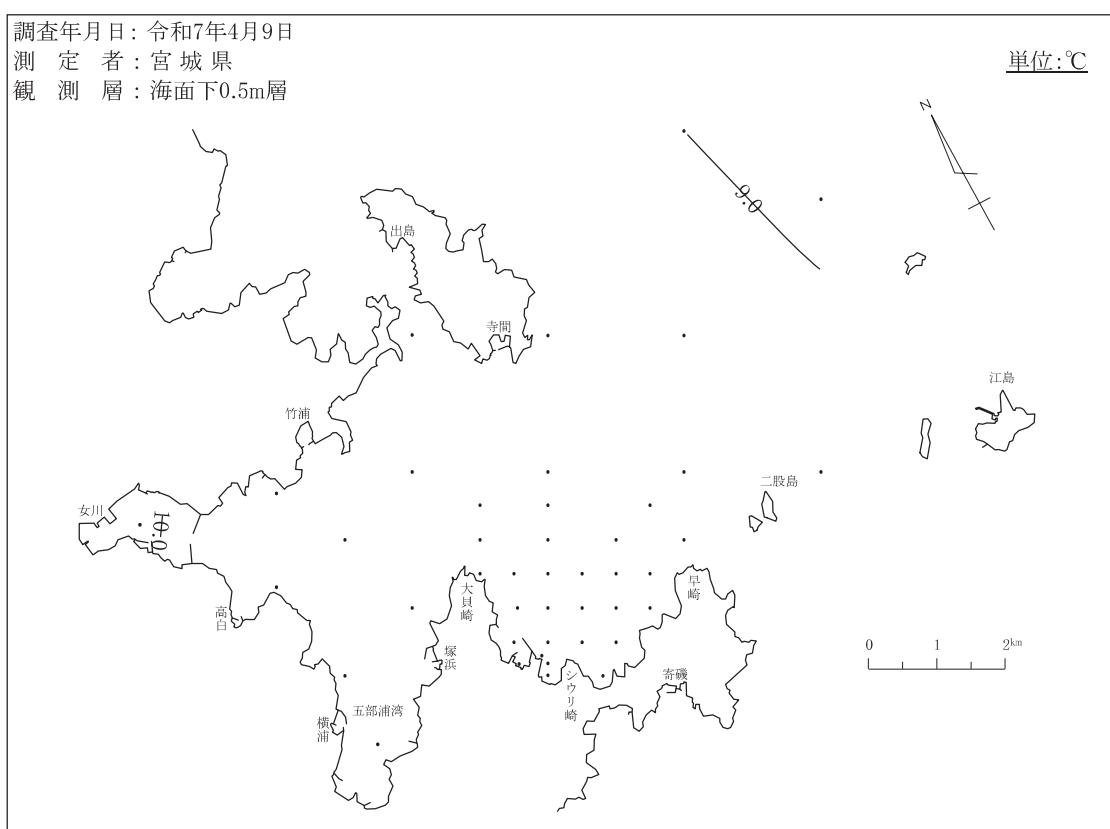
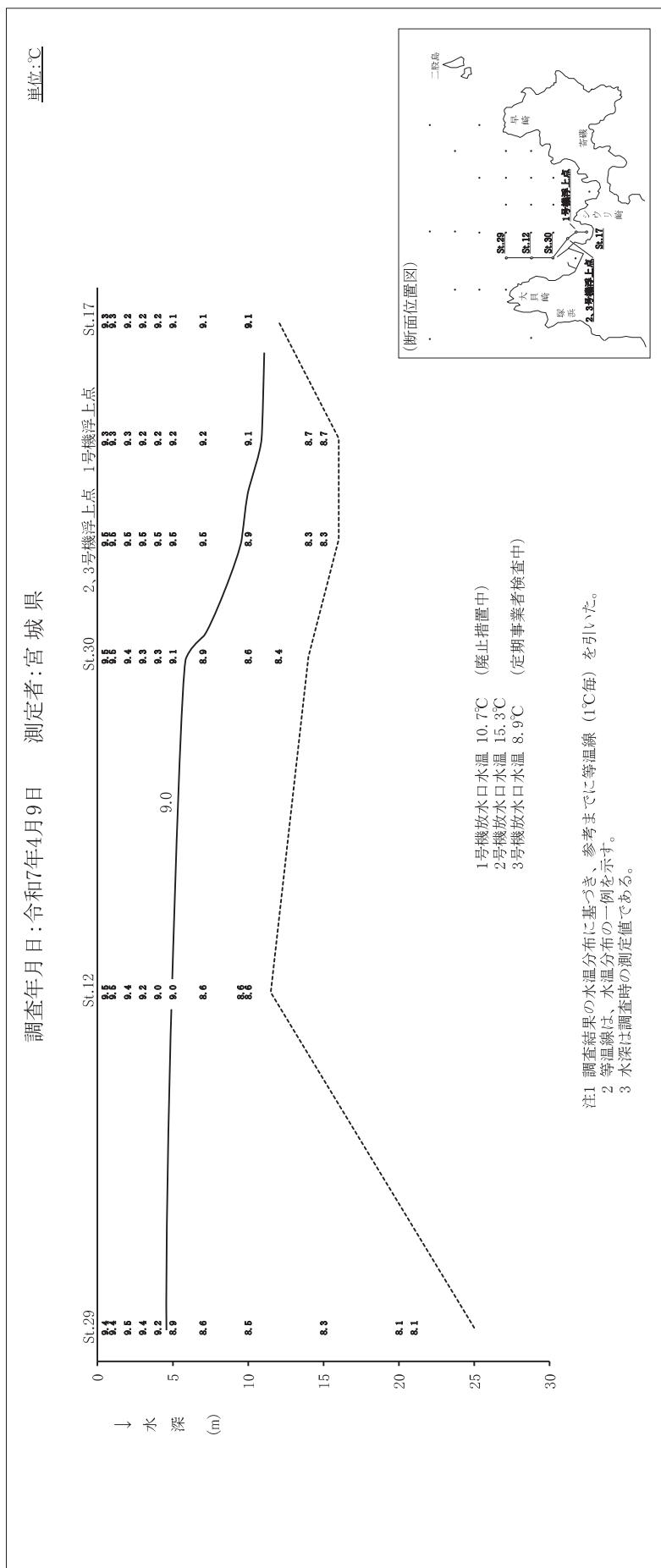


図-2-(1) 水温水平分布



注 等温线は、水温分布の一例を示す。

図-2-(2) 等温線



図]-3-(1) St.17-St.29ラインの水温鉛直分布(1・2、3号機浮上点含む)

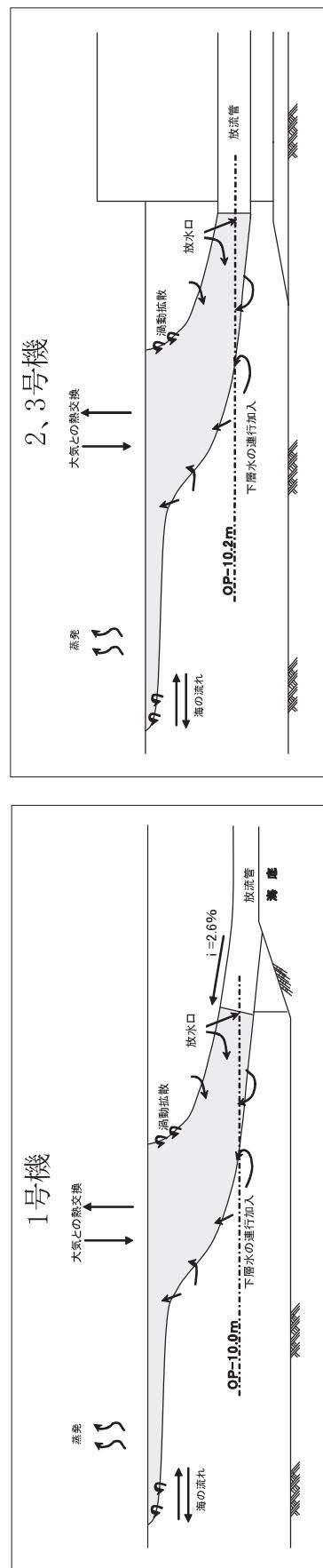
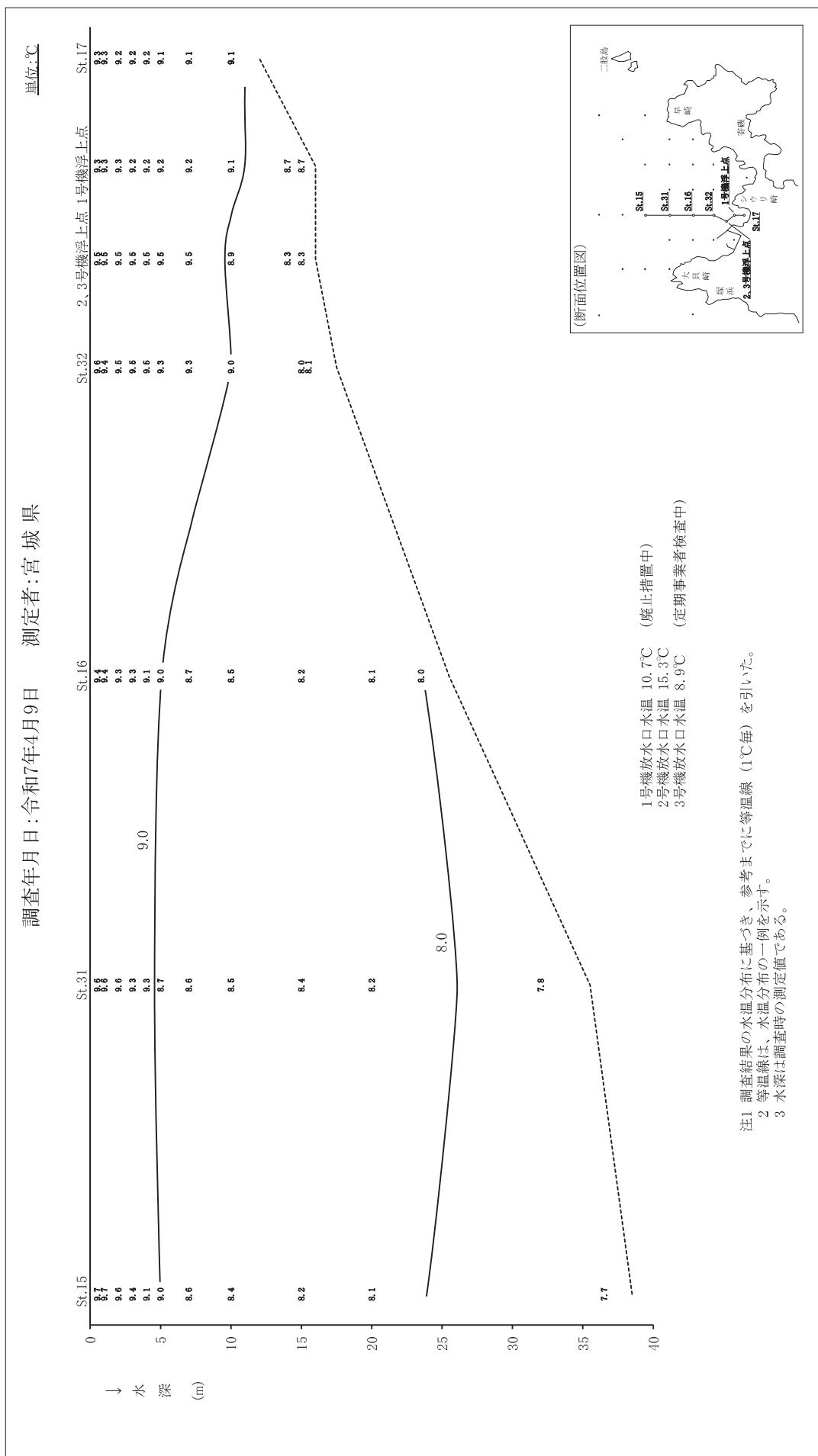


図-3-(2) 水中放流方式における温排水の拡散概念



調査年月日:令和7年4月9日 測定者:宮城県

単位:℃

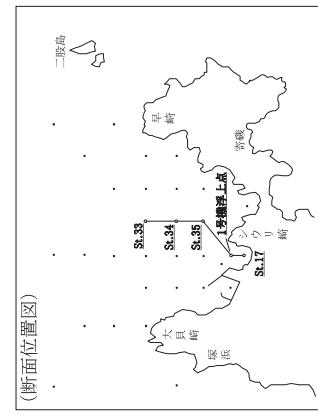
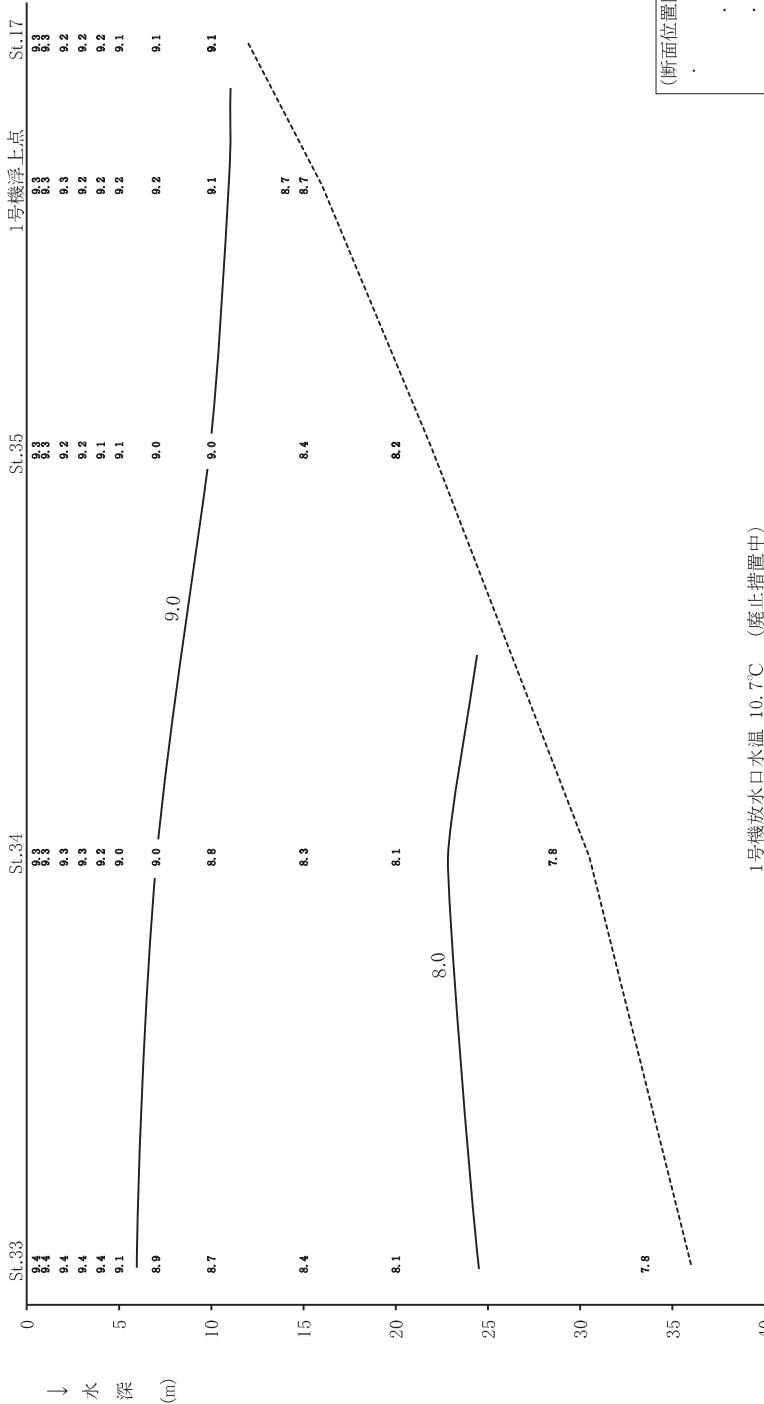
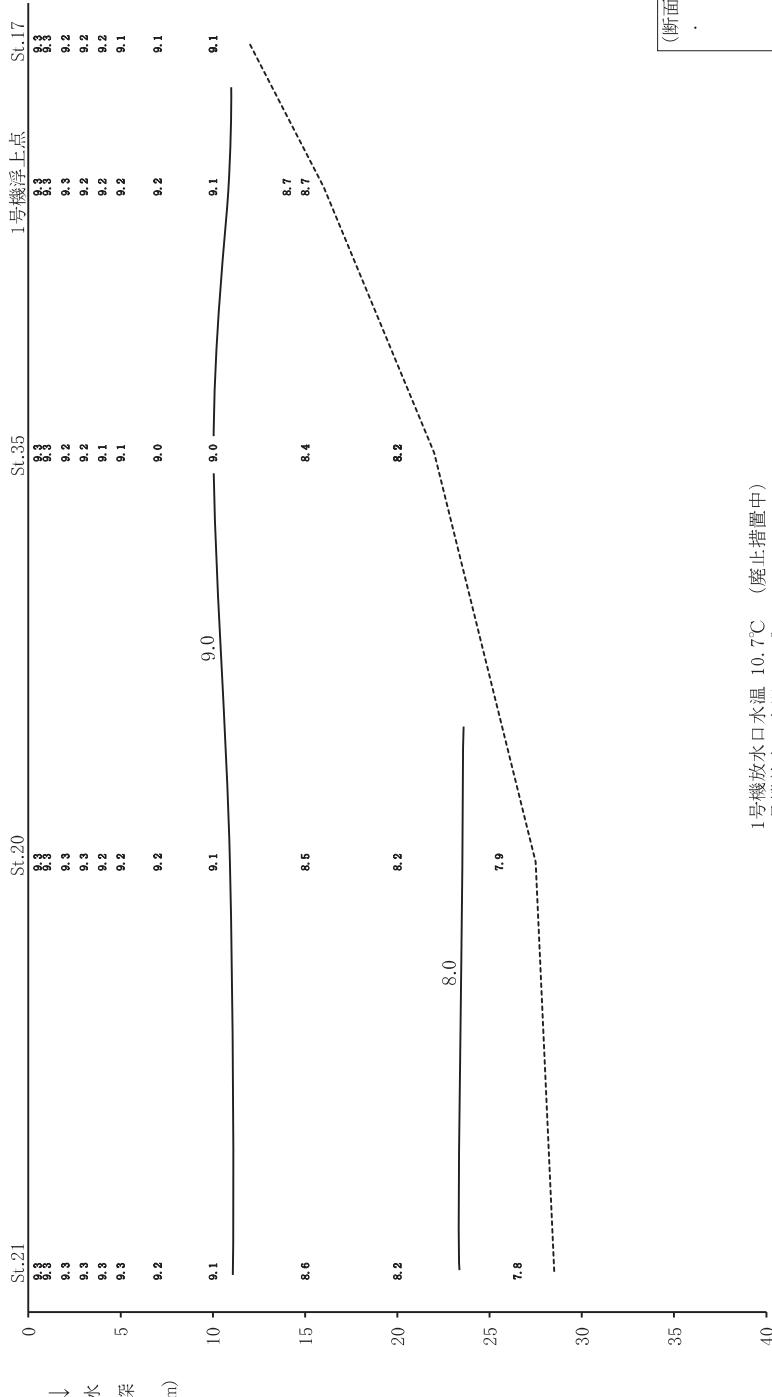


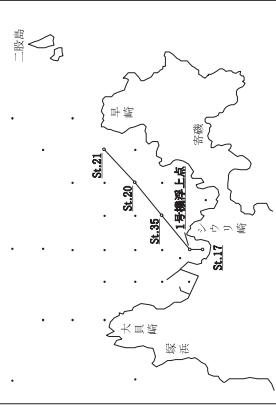
図-3-(4) St.17-St.33ラインの水温鉛直分布(1号機浮上点含む)

調査年月日：令和7年4月9日 測定者：宮城県

単位：℃



(断面位置図)



1号機放水口水温 10.7°C (廃止措置中)
2号機放水口水温 15.3°C
3号機放水口水温 8.9°C (定期事業者検査中)

注1 調査結果の水温分布に基づき、参考までに等温線 (1°C毎) を引いた。

2 等温線は、水温分布の一例を示す。
3 水深は調査時の測定値である。

図-3-(5) St.17-St.21ラインの水温鉛直分布(1号機浮上点含む)

表-2 水溫鉛直分布(干潮時)

東北電力
着定測調査年月日
単位：℃ 令和7年5

注 1 St. はステーションの意で測定地点を示す。

2 「／」は海底に達したため測定不能箇所を示す。

3 過去注昭和59年7月から令和6年7月までを表す。

過去同期(昭和59年7月から令和6年度まで)の

周辺海域[3.7~16.7°C] 前面海域[4.8~15.6°C]

1号機運上占[5.2≈15.4°C] 2号機運上占[5.8≈15.8°C]

範囲内の最大値

範囲内の最小値

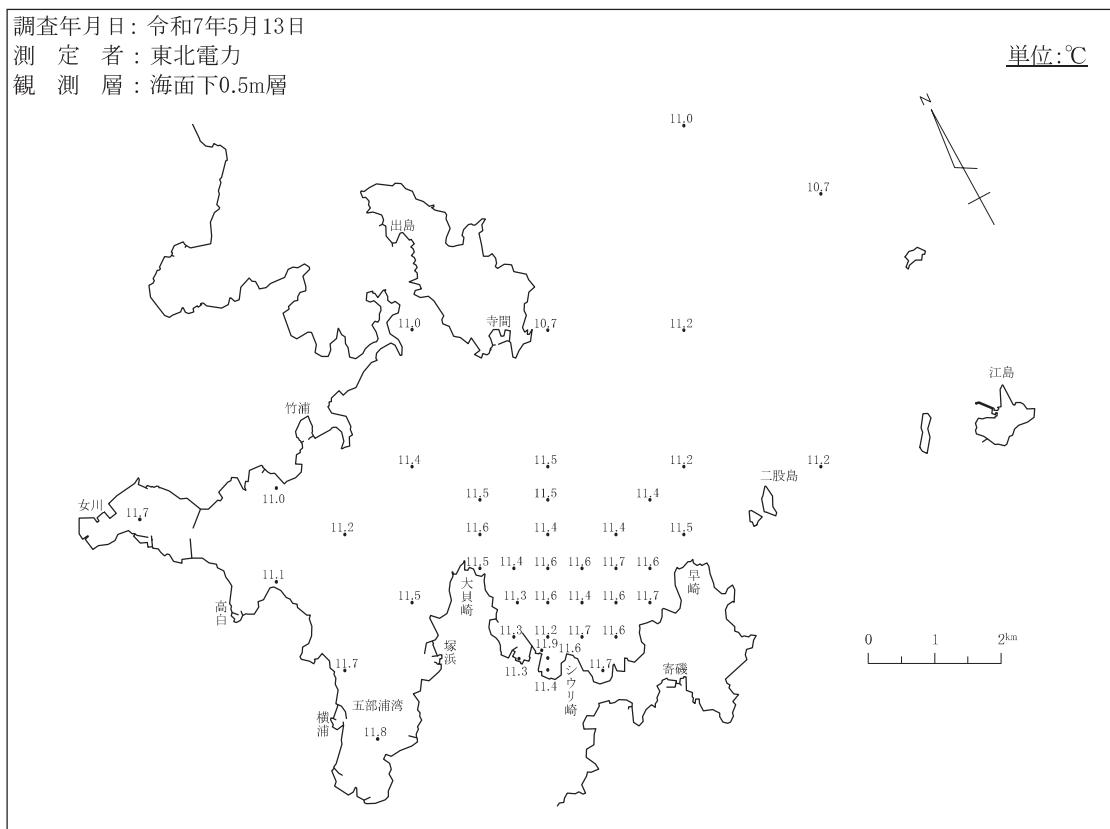
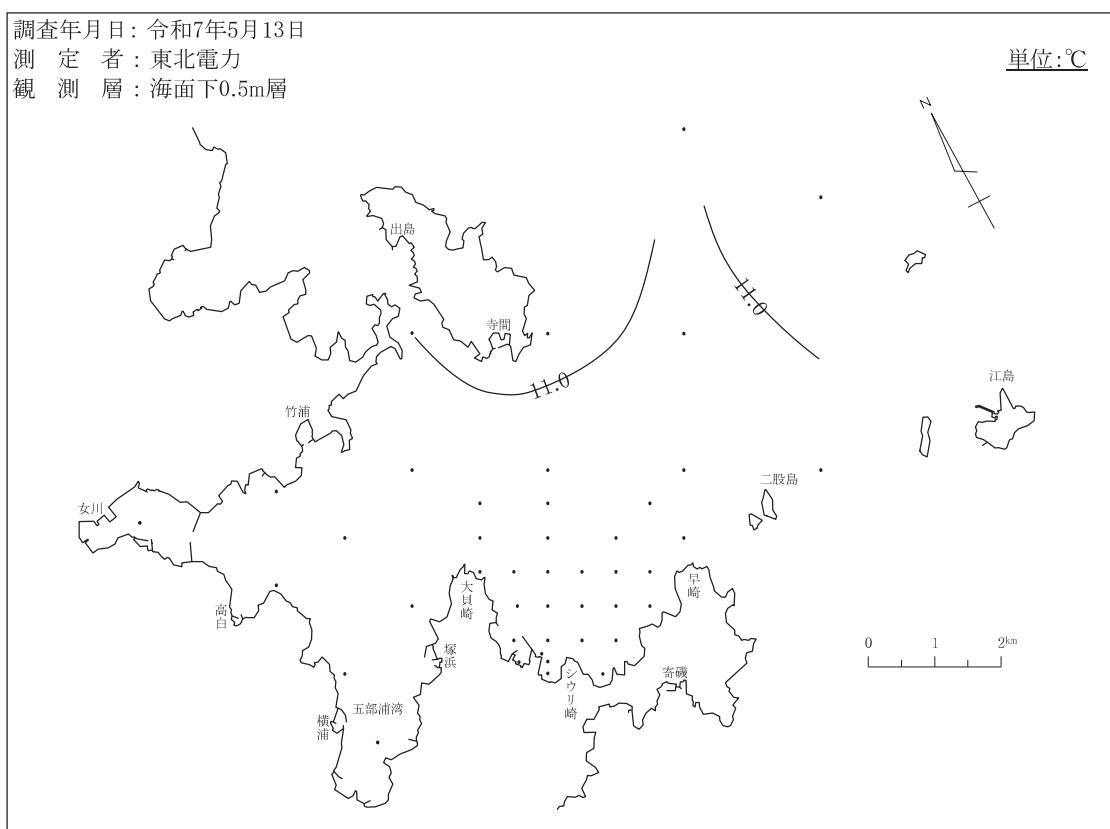


図-4-(1) 水温水平分布



注 等温线は、水温分布の一例を示す。

図-4-(2) 等温線

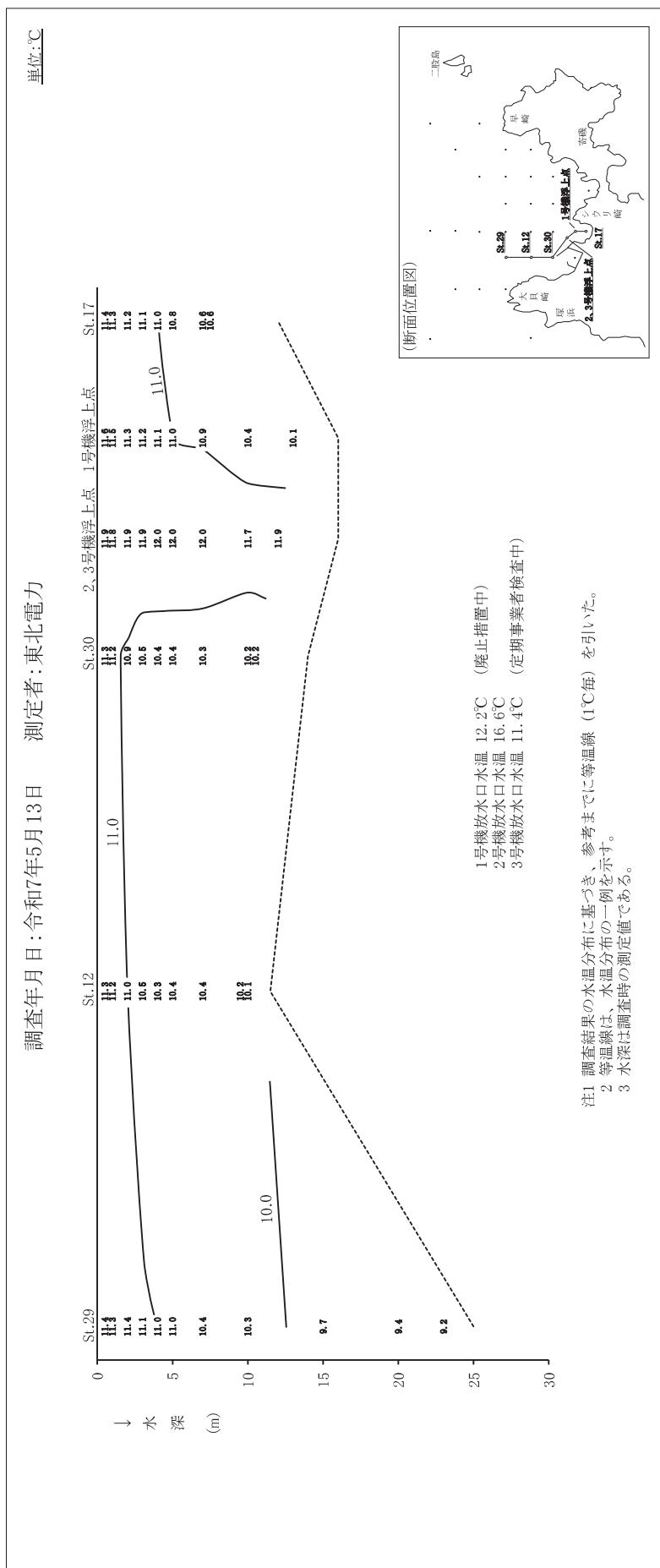


図-5-(1) St.17-St.29ラインの水温鉛直分布(1・2、3号機浮上点含む)

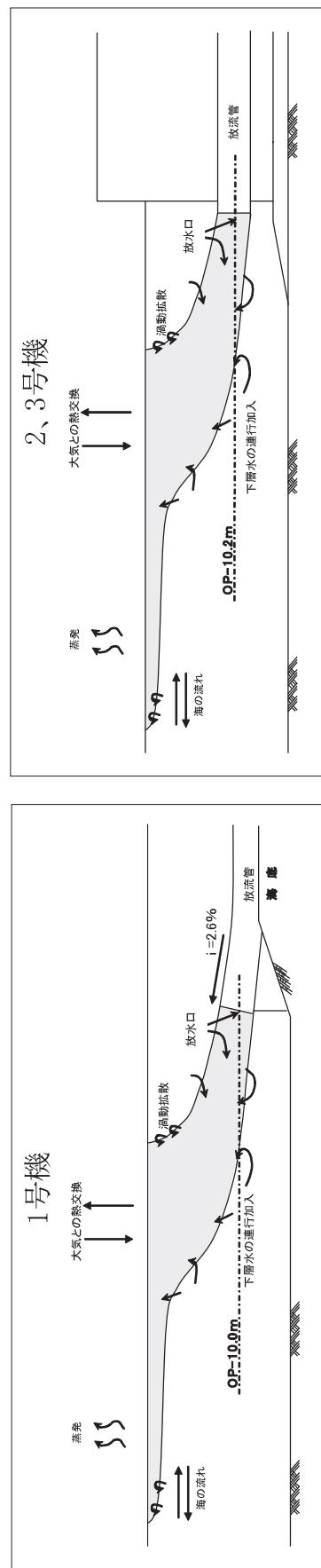


図-5-(2) 水中放流方式における温排水の拡散概念

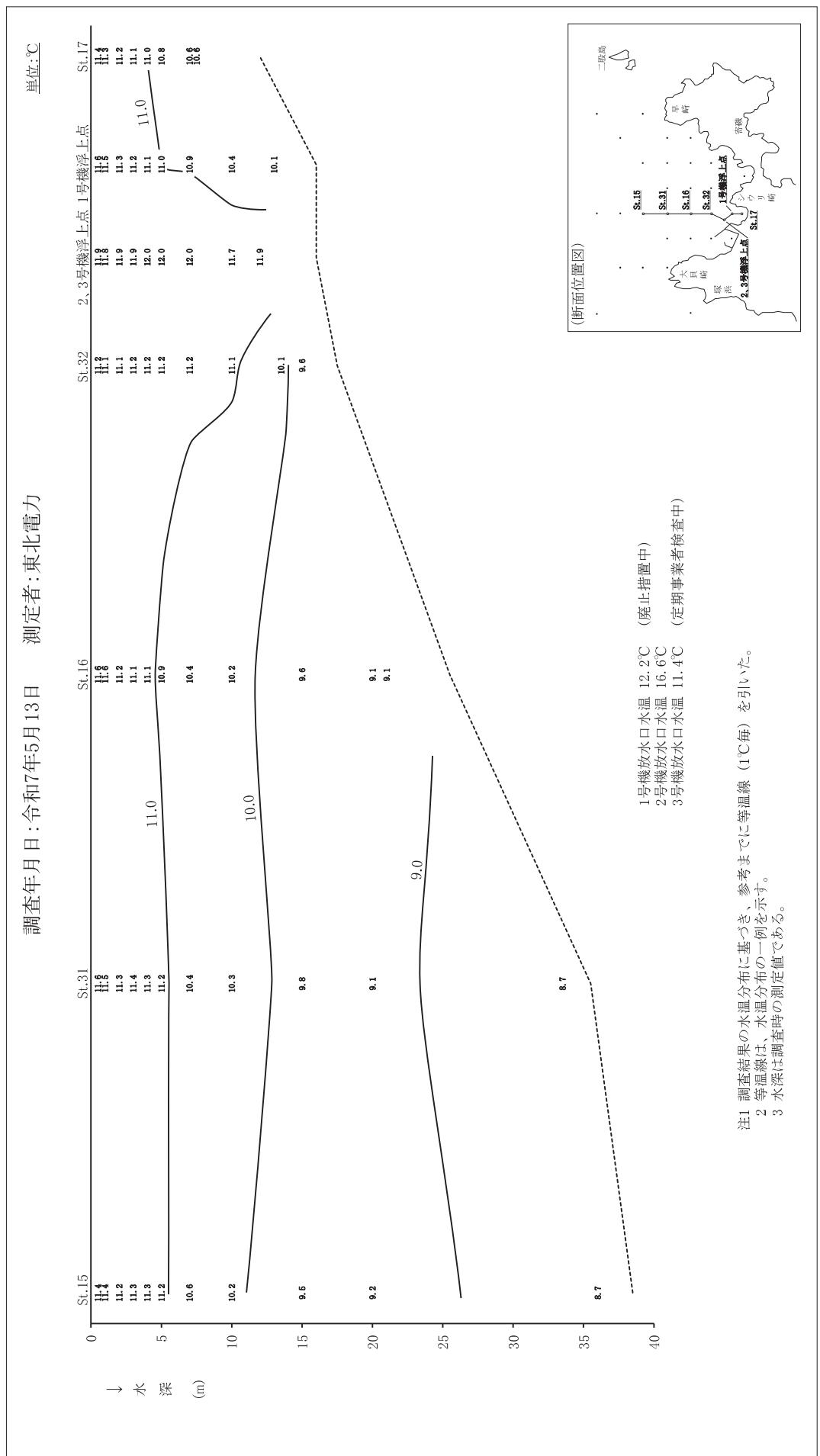


図-5-(3) St.17-St.15ラインの水温鉛直分布(1・2、3号機浮上点含む)

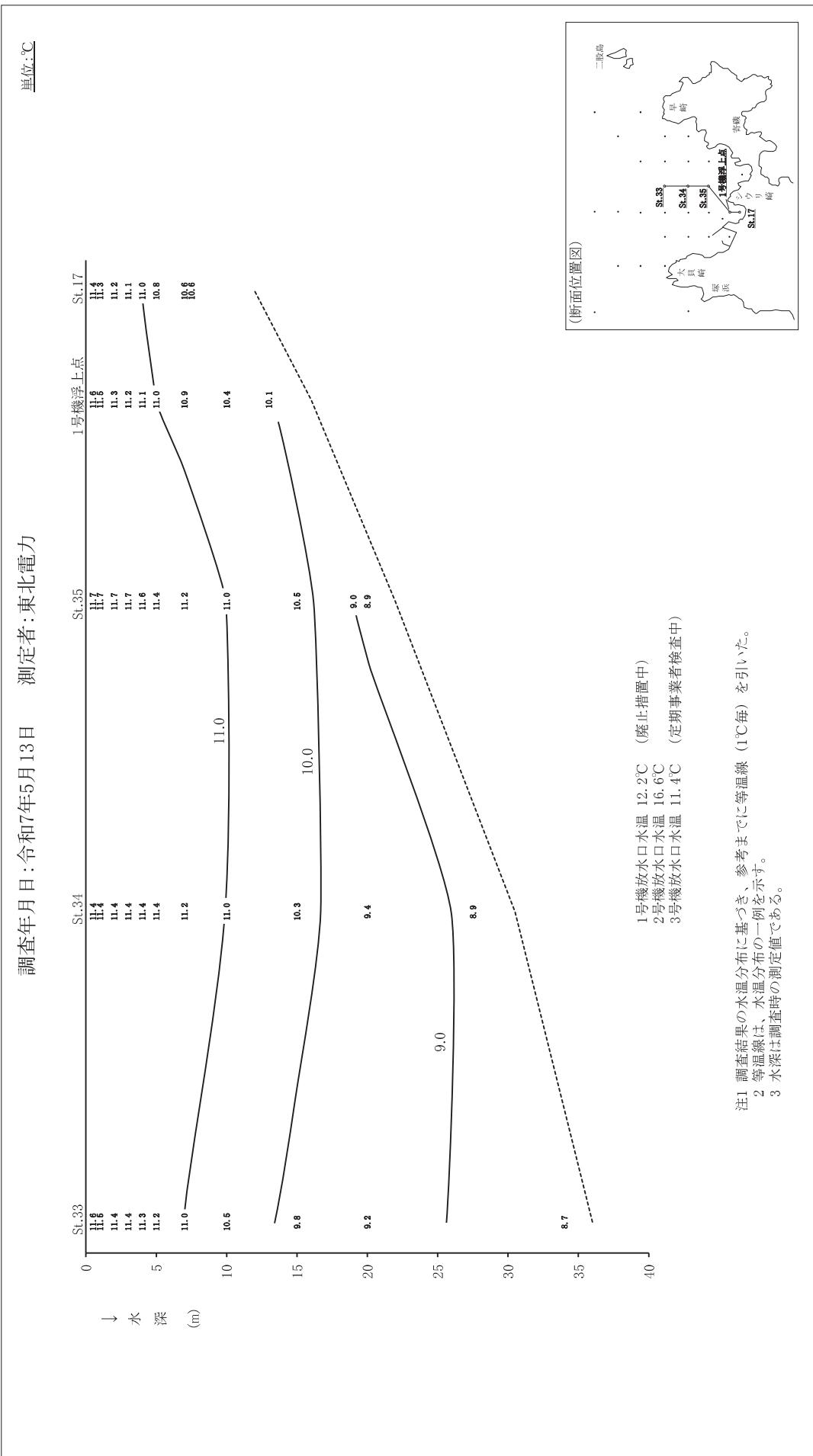
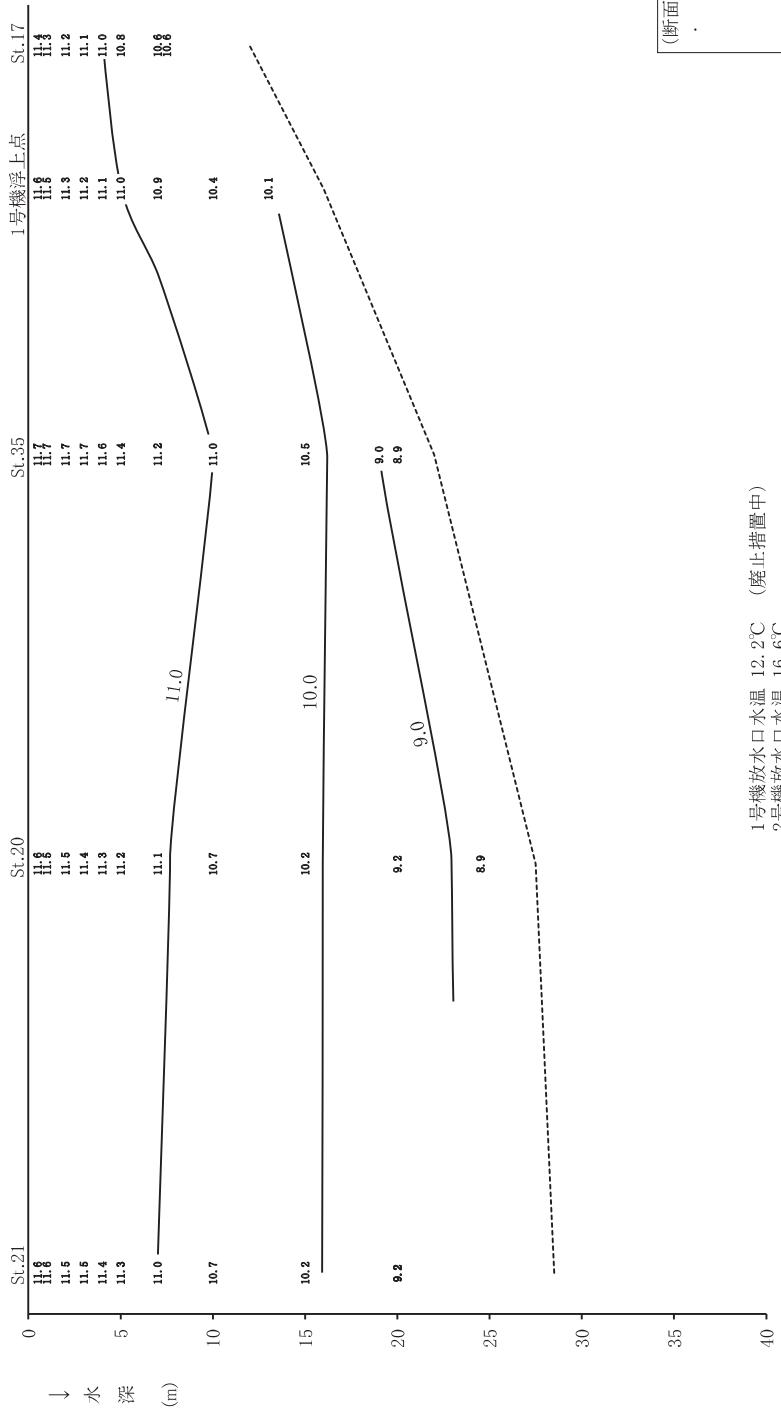


図-5-(4) St.17-St.33ラインの水温鉛直分布(1号機放水口上点含む)

調査年月日：令和7年5月13日

単位：℃

測定者：東北電力



1号機放水口水温 12.2℃ (廃止措置中)
2号機放水口水温 16.6℃
3号機放水口水温 11.4℃ (定期事業者検査中)

注1 調査結果の水温分布に基づき、参考までに等温線 (1℃毎) を引いてある。

2 等温線は、水温分布の一例を示す。
3 水深は調査時の測定値である。

図-5-(5) St.17-St.21ラインの水温鉛直分布(1号機浮上点含む)

表-3 浮上点他の水温鉛直分布と取水口前面水温との較差

単位:℃

調査年月日：令和7年4月9日

測定者：宮城県

浮上点 1号機 2、3号機取水口

浮上点 前面 較差

		取水口	前面	較差		取水口	前面	較差	
0.5 m	9.3	9.5	9.7	-0.2	9.3	9.7	-0.4	9.6	9.7 -0.1
1	9.3	9.5	9.7	-0.2	9.3	9.7	-0.4	9.4	9.7 -0.3
2	9.3	9.5	9.6	-0.1	9.2	9.6	-0.4	9.5	9.6 -0.1
3	9.2	9.5	9.5	0.0	9.2	9.5	-0.3	9.5	9.5 0.0
4	9.2	9.5	9.3	-0.1	9.2	9.3	-0.1	9.5	9.3 0.2
5	9.2	9.5	9.2	0.0	9.1	9.2	-0.1	9.3	9.2 0.1
7	9.2	9.5	8.9	0.3	9.1	8.9	0.2	9.3	8.9 0.4
10	9.1	8.9	8.6	0.3	9.1	8.6	0.5	9.0	8.6 0.4
15	8.7	8.3	8.0	0.3	8.0	8.0	0.0	8.0	8.0 0.0
20	8.7	8.3	8.6	0.3	8.0	8.0	0.0	8.0	8.0 0.0
海底上2 m (水深: m)	8.7	8.3	8.6	0.3	8.0	8.0	0.0	8.0	8.0 0.0
	(16.0)	(16.0)	(11.5)						

		過去同期の水温較差範囲	-1.5 ~ 2.5	-1.2 ~ 2.5			過去同期の水温較差範囲	-1.0 ~ 1.6	
	(S60.7～R6年度)				(S60.7～R6年度)				

		取水口	前面	較差		取水口	前面	較差	
0.5 m	11.6	11.9	11.3	0.3	0.6	11.4	11.3	0.1	-0.1
1	11.5	11.8	11.2	0.3	0.6	11.3	11.2	0.1	-0.1
2	11.3	11.9	11.0	0.3	0.9	11.2	11.0	0.2	-0.1
3	11.2	11.9	10.8	0.4	1.1	11.1	10.8	0.3	-0.1
4	11.1	12.0	10.8	0.3	1.2	11.0	10.8	0.2	-0.1
5	11.0	12.0	10.6	0.4	1.4	10.8	10.6	0.2	-0.1
7	10.9	12.0	10.4	0.5	1.6	10.6	10.4	0.2	-0.1
10	10.4	11.7	10.1	0.3	1.6	10.1	10.1	0.0	-0.1
15	10.4	11.7	10.1	0.3	1.6	10.1	10.1	0.0	-0.1
20	10.4	11.7	10.1	0.3	1.6	10.1	10.1	0.0	-0.1
海底上2 m (水深: m)	10.1	11.9	10.1	0.3	1.6	10.1	10.1	0.0	-0.1
	(15.0)	(14.0)	(11.5)						

		過去同期の水温較差範囲	-1.5 ~ 2.2	-1.2 ~ 2.5			過去同期の水温較差範囲	-1.0 ~ 1.6	
	(S60.7～R6年度)				(S60.7～R6年度)				

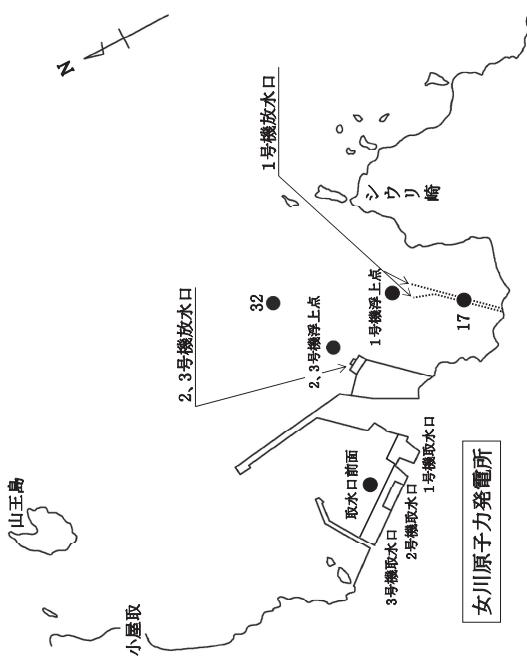


図-6 浮上点他の取水口位置

		過去同期の水温較差範囲	-1.1 ~ 1.8	-0.9 ~ 3.9			過去同期の水温較差範囲	-1.2 ~ 1.0	
	(S60.7～R6年度)				(S60.7～R6年度)				

注1 「/」は海底に達したため測定不能箇所及び較差が算出できない箇所を示す。

2 営業運転開始年月：1号機 S59.6(H30.12運転終了)、2号機 H7.7、3号機 H14.1

表-4 塩分鉛直分布(干潮時)

調査年月日：令和7年4月9日
測定者：宮城県

St. m	調 査 域																				取水口 前面	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
0.5 m	33.0	33.0	32.9	33.3	33.2	32.7	32.8	33.2	33.0	33.2	32.3	32.8	33.0	33.4	33.2	33.4	33.0	33.3	33.0	33.4	32.0	32.7
1 m	33.0	33.0	32.9	33.3	33.2	32.6	32.9	33.2	33.0	33.2	32.3	32.8	33.0	33.4	33.2	33.4	33.0	33.3	33.0	33.4	32.0	32.7
2 m	33.1	33.1	32.9	33.3	33.2	32.7	33.2	33.2	33.0	33.3	32.3	32.9	33.0	33.4	33.3	33.4	33.0	33.3	33.0	33.4	32.0	32.7
3 m	33.3	33.3	33.3	33.4	33.3	33.3	33.2	33.2	33.0	33.3	32.3	32.9	33.0	33.4	33.3	33.4	33.0	33.3	33.0	33.4	32.0	32.7
4 m	33.5	33.4	33.4	33.4	33.4	33.4	32.8	33.3	33.4	33.1	33.4	33.3	32.5	33.0	33.4	33.3	33.4	33.1	33.1	33.1	32.8	32.9
5 m	33.5	33.5	33.4	33.4	33.5	33.5	32.9	33.4	33.6	33.2	33.6	33.4	32.6	33.0	33.5	33.5	33.4	33.1	33.1	32.4	33.1	32.8
7 m	33.6	33.6	33.5	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.4	33.5	33.5	33.4	33.3	33.1	33.3	33.5	33.4
10 m	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.5	33.6	33.5	33.5	33.4	33.3	33.4	33.6	33.5
15 m	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6
20 m	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6
海底上2m (水深, m)	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6	33.6

注 1 St. はステーションの意で測定地点を示す。

2 「/」は海底に達したため測定不能箇所を示す。

3 実用塩分(気象庁「海洋観測指針」による)であり、電気伝導度比により定義されたため単位ではない。海水1kg中に含まれる塩分(g)と同程度の値を示す。

■範囲内の最大値
□範囲内の最小値

表—5 塩分鉛直分布(干潮時)

調査年月日： 令和7年5月13日
測定者： 東北電力

注 1 St はステニシヨンの音で測定地を示す

9 「（）付添庭に達）女女次測定不能篠町新子才

範囲内の最大値

(2) 水温調査 (モニタリング)

水温調査 (モニタリング) においては、1~5、11を女川湾沿岸、6、8~10、12~15を前面海域、7を湾中央部として記述することとする。

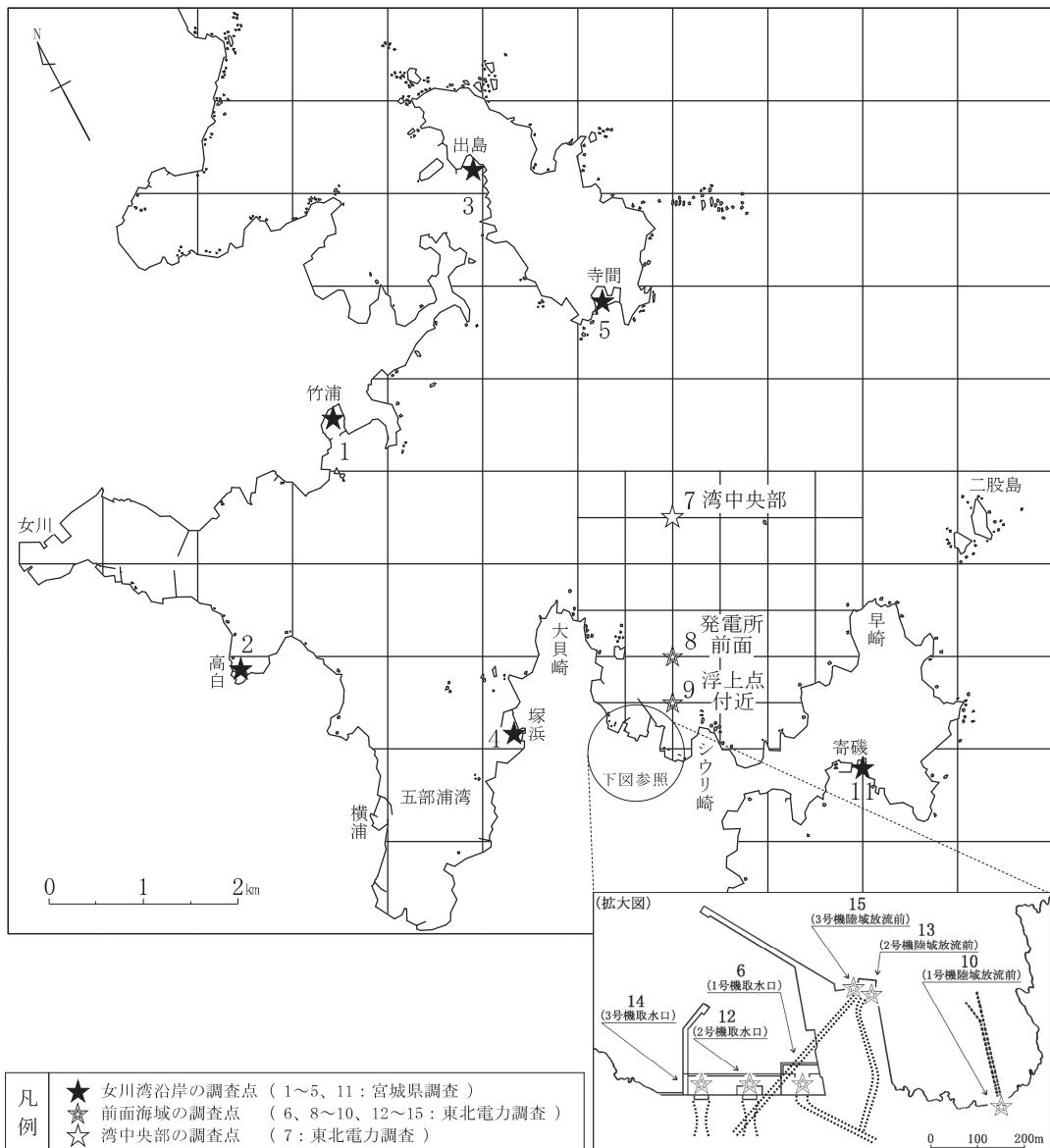


図-7 水温調査 (モニタリング) 位置

当該四半期の水温調査 (モニタリング) で得られた結果からは、温排水の影響と考えられる異常な値は観測されなかった。なお、調査結果は以下に示す通りである。

女川湾沿岸 (1~5、11) の水温と前面海域 (6、8、9、12、14) の水温の調査結果は図-8、10及び表-6に示す通りであり、前面海域の水温は、女川湾沿岸の水温と比較して、St. 6 (1号機取水口) を除き、同範囲またはやや低めに推移していた。浮上点付近と前面海域各調査点との水温較差の出現日数については、図-9に示す通りであり、6月のSt. 6 (1号機取水口) との水温較差が負の側に多く出現したが、これは気温の影響が大きいと考えられる。

過去同期との比較では、水温は全ての調査海域において過去の測定範囲内にあつた。

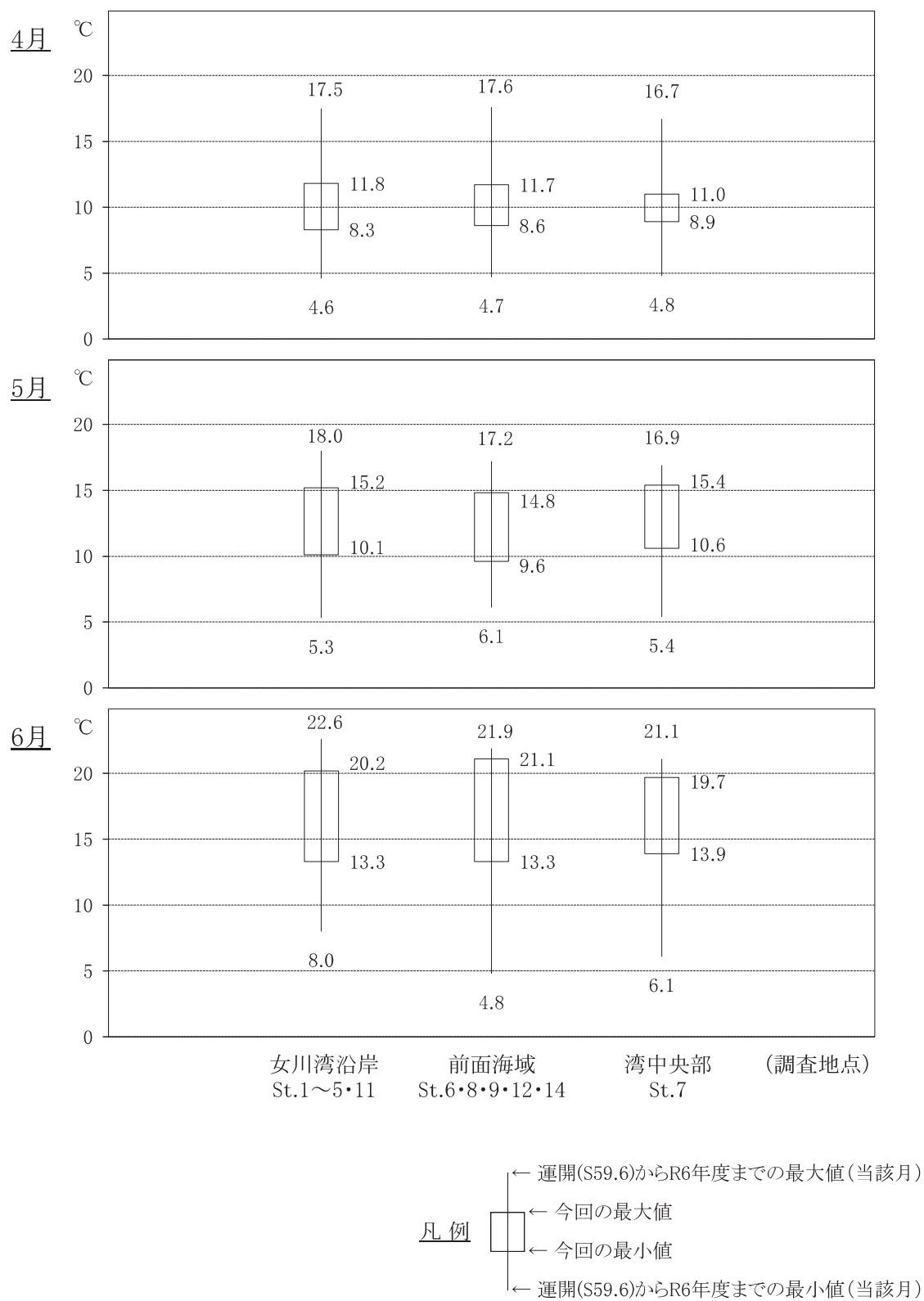
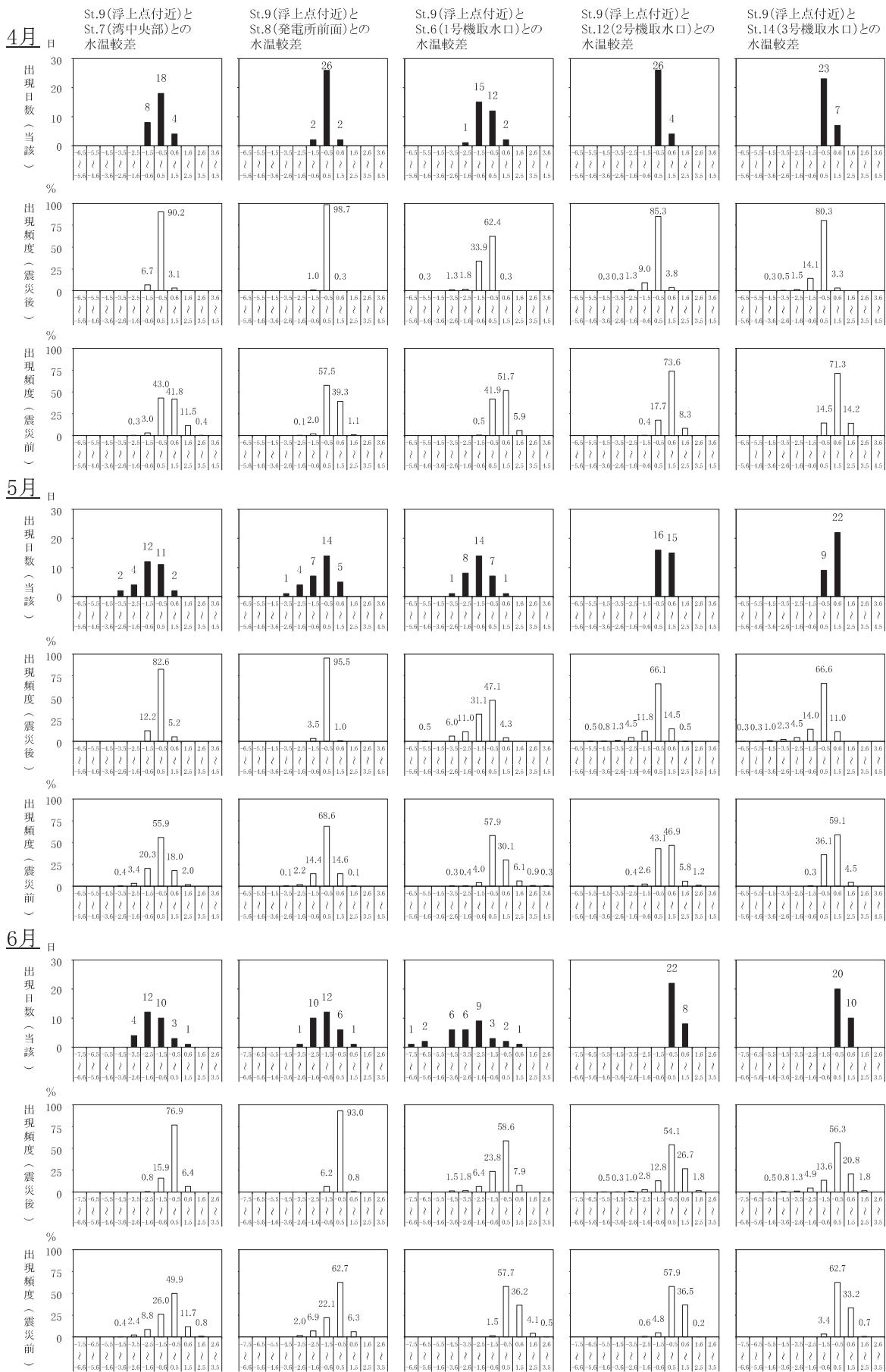


図-8 水温調査(モニタリング)による水温測定範囲



注1 上段の黒色棒グラフは当該月の出現日数を示し、中段及び下段の白抜き棒グラフは過去(震災前・後)の出現頻度を示す。

2 過去のデータ期間は、震災前(H59.6~H23.3.10)、震災後(H23.3.11~R7.3.31)とした。

3 水温較差範囲は、4月及び5月は-6.5℃~4.5℃、6月は-7.5℃~3.5℃とした。

図-9 浮上点付近と前面海域各調査点との水温較差の出現日数

表-6 水温調査(モニタリング)月旬平均水温

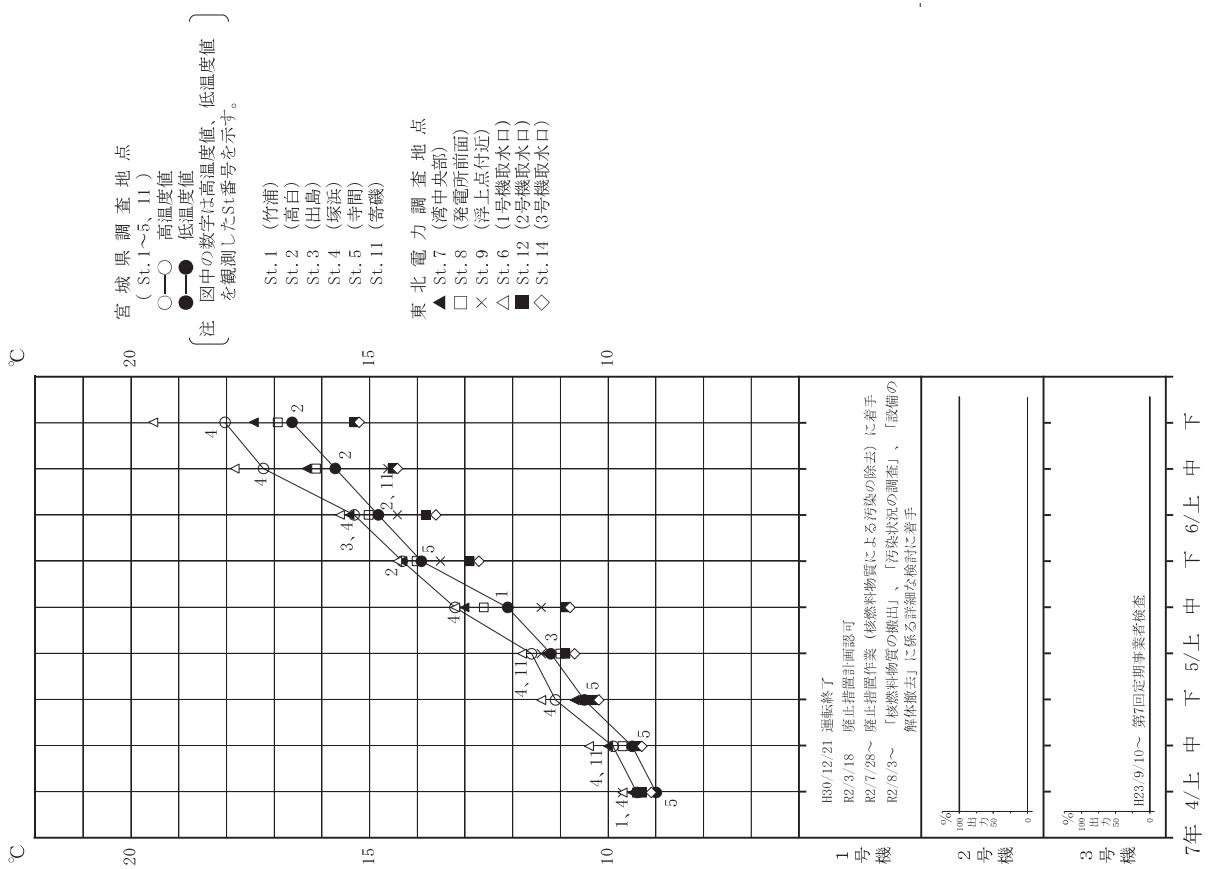


図-10 水温調査(モニタリング)月毎平均水温

单位： $^{\circ}\text{C}$

資料

表-7 調査方法

測定者:宮城県

調査事項	月日	地点数	観測層	方 法	項目
1.水温・塩分調査	4.9	43	0.5、1、2、3、4、5、7、 10、15、20、海底上2m	電気水温、塩分計を用いて測定	水温、塩分
2.流動調査	—	1	2、15m	電磁自記式流向流速計により、15昼夜連続測定	流向、流速
3.海象調査	4.9	1	—	目視による測定	波高、波向
4.水質調査	4.9	16	0.5、5、10、20、 海底上1m	電気水温、塩分計を用いて測定 ハンドーン型採水器を用いて採水し、測定、分析	水温、塩分、SS、透明度、pH、DO、COD、 PO ₄ -P、NH ₄ -N、NO ₂ -N、NO ₃ -N
5.底質調査	5.12	18	—	スミス・マッキンタイヤ型採泥器を 用いて採泥し、測定、分析	泥温、Eh、水分含有率、IL、T-S、COD、粒度組 成
6.水温調査 (モニタリング)	周年	0.5m	—	簡易記録式水温計による連続測定	水温
生 物 調 査	1.養殖生物調査	6	—	現地観察調査 聞き取りによる調査 (養殖生物 … マガキ・ワカメ[2~3月]、 マボヤ[5~6月])	種類、量、生育状況など

注 月日欄の「—」は、今期の実施対象外調査を示す。

表-8 調査方法

測定者:東北電力

調査事項	月日	地点数	観測層	方 法	項目
1.水温・塩分調査	5.13	43	0.5、1、2、3、4、5、7、10、15、20、海底上2m	電気水温、塩分計を用いて測定	水温、塩分
2.流動調査	5.3~22	6	2、海底上2m	電磁自記式流向流速計により、20昼夜連続測定	流向、流速
3.海象調査	5.13	1	—	超音波式自記波高計及び陸上からトランシットにより測定	波高、波向
4.水質調査	5.14	18	0.5、5、10、20、海底上1mまたは0.5m	ハンドーン型採水器を用いて採水し、測定、分析	水温、塩分、SS、透明度、pH、DO、COD、n-ヘキ、PO ₄ -P、T-P、NH ₄ -N、NO ₂ -N、NO ₃ -N、Org-N、T-N、クロロブロモ、7-オクチ
物 理	—	6	0.5m	—	CN、Cr(VI)、Cd、Pb、Zn、Cu、As、T-Fe、T-Mn、T-Cr、T-Hg、R-Hg、Org-P、PCB、大腸菌群数
5.底質調査	—	18	—	スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて採泥し、測定、分析	泥温、Eh、水分含有率、IL、T-S、COD、Org-C、Org-N、粒度組成
調 査	—	6	—	—	CN、Cd、Pb、Zn、Cu、Cr(VI)、As、T-Fe、T-Mn、T-Cr、T-Hg、R-Hg、Org-P、PCB、HCH、n-ヘキ、大腸菌群数
6.気象観測	周年	1	—	発電所敷地内露場にて「地上気象観測指針」に基づき観測	風向、風速、気温、湿度、降水量など
7.水温調査 (モニタリング)	周年	9	0.5m St.10、13、15については 水路敷上3m	水温計を搭載した観測ブイならびに フローティング装置による連続モニタリング St.10、13、15については固定式水温計による連続モニタリング	水温

注 月日欄の「—」は、今期の実施対象外調査を示す。

表-9 調査方法

調査事項					月日	地点数	観測層	方 法	項目
生 物 調 査	1.プランクトン調査	4.17	4	0~5、5~10、10~ 20、20~海底上1m	北原式定量ネットNXX13の鉛直曳きに より採集			動物、植物プランクトンの出現種、出現量、沈殿量	
		5.14	18	0~5、5~10、10~ 20、20~海底上1m		同上			同上
	2.卵稚仔調査	4.17	4	0~5、5~10、10~ 20、20~海底上1m	丸稚ネットNMG52の水平曳きにより採集 バンドーン型採水器を用いて採集	大型動物プランクトンの出現種、出現量 動物、植物プランクトンの出現種、出現量、沈殿量			
		5.14	21	表層、10m					
	3.底生生物調査	—	18	0~海底上1m	丸特ネットNMG52の鉛直曳きにより採集 スミス・マッキンタイヤ型採泥器を用いて採集	丸特ネットNMG52の鉛直曳きにより採集 新野式ドレッジを用いて採集			同上
	4.潮間帯生物調査	5.8~17	8	高、中、低、 潮下帯	ダイバーによる高潮帯から潮下帯までの 観察及び方形枠取採集	ダイバーによる高潮帯から潮下帯までの 観察及び写真撮影	海藻草類、動物の出現種、出現量、生息密度、現存量		
		5.8~19	8	0~15m	ダイバーによる水深0mから15mまでの 観察及び写真撮影				
	5.漁業漁獲調査	5.20~22	5※	—	ダイバーによる水深5m、10m、 及び15m地点の坪刈採集	定置網に捕獲された漁獲物を調査 底刺網に捕獲された漁獲物を調査	海藻草類、動物の出現種、出現量 漁獲物の出現種、出現量		
		5.19~20	5	—					同上

注1 月日欄の「—」は、今期の実施対象外調査を示す。

2 ※ 実施可能な高白地点、桐ヶ崎地点及び寄磯地点の3地点で実施した。

表-10 水温・塩分調査時の観測条件

調査年月日 令和7年4月9日

8時05分～11時11分

波 高	0.48 m (日平均)		
波 向	NE		
潮 汐 (O.P.) ^{※1}	満 潮	0.11 m	(13:21)
	干 潮	-0.24 m	(7:39)
風 速	1.4 m/s		
風 向	ENE		
気 温	9.9 °C (日平均)		
湿 度	73 % (日平均)		
取水口温度	1号機	9.9 °C	2号機 9.2 °C 3号機 8.9 °C
陸域放流前温度	1号機	10.7 °C	2号機 15.3 °C 3号機 8.9 °C
放 水 量 ^{※2}	1号機	1 m ³ /sec.	2号機 60 m ³ /sec. 3号機 3 m ³ /sec.

※1 潮位の観測基準面は、発電所基準面O.P. = 0.0m(東京湾基準T.P. = -0.74m)である。

※2 定格熱出力一定運転時の放水量は、1号機 39m³/sec.、2号機 60m³/sec.、3号機 60m³/sec. であり、復水器設計水温上昇値は7°Cである。

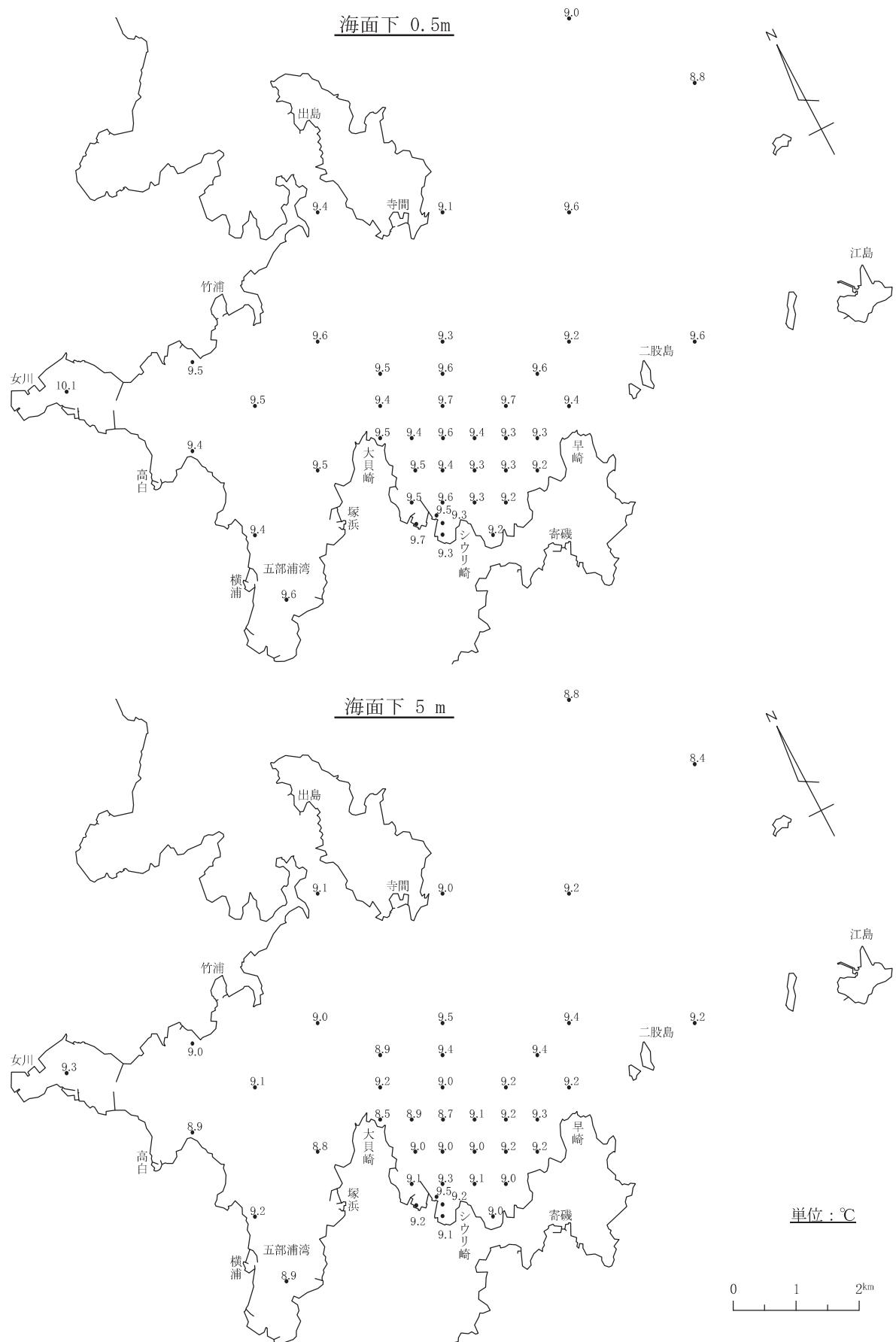
調査年月日 令和7年5月13日

8時00分～9時23分

波 高	0.30 m (日平均)		
波 向	NE		
潮 汐 (O.P.) ^{※1}	満 潮	0.36 m	(2:32)
	干 潮	-0.93 m	(9:33)
風 速	2.2 m/s		
風 向	SSW		
気 温	17.0 °C (日平均)		
湿 度	67 % (日平均)		
取水口温度	1号機	11.7 °C	2号機 10.7 °C 3号機 10.6 °C
陸域放流前温度	1号機	12.2 °C	2号機 16.6 °C 3号機 11.4 °C
放 水 量 ^{※2}	1号機	1 m ³ /sec.	2号機 60 m ³ /sec. 3号機 3 m ³ /sec.

※1 潮位の観測基準面は、発電所基準面O.P. = 0.0m(東京湾基準T.P. = -0.74m)である。

※2 定格熱出力一定運転時の放水量は、1号機 39m³/sec.、2号機 60m³/sec.、3号機 60m³/sec. であり、復水器設計水温上昇値は7°Cである。



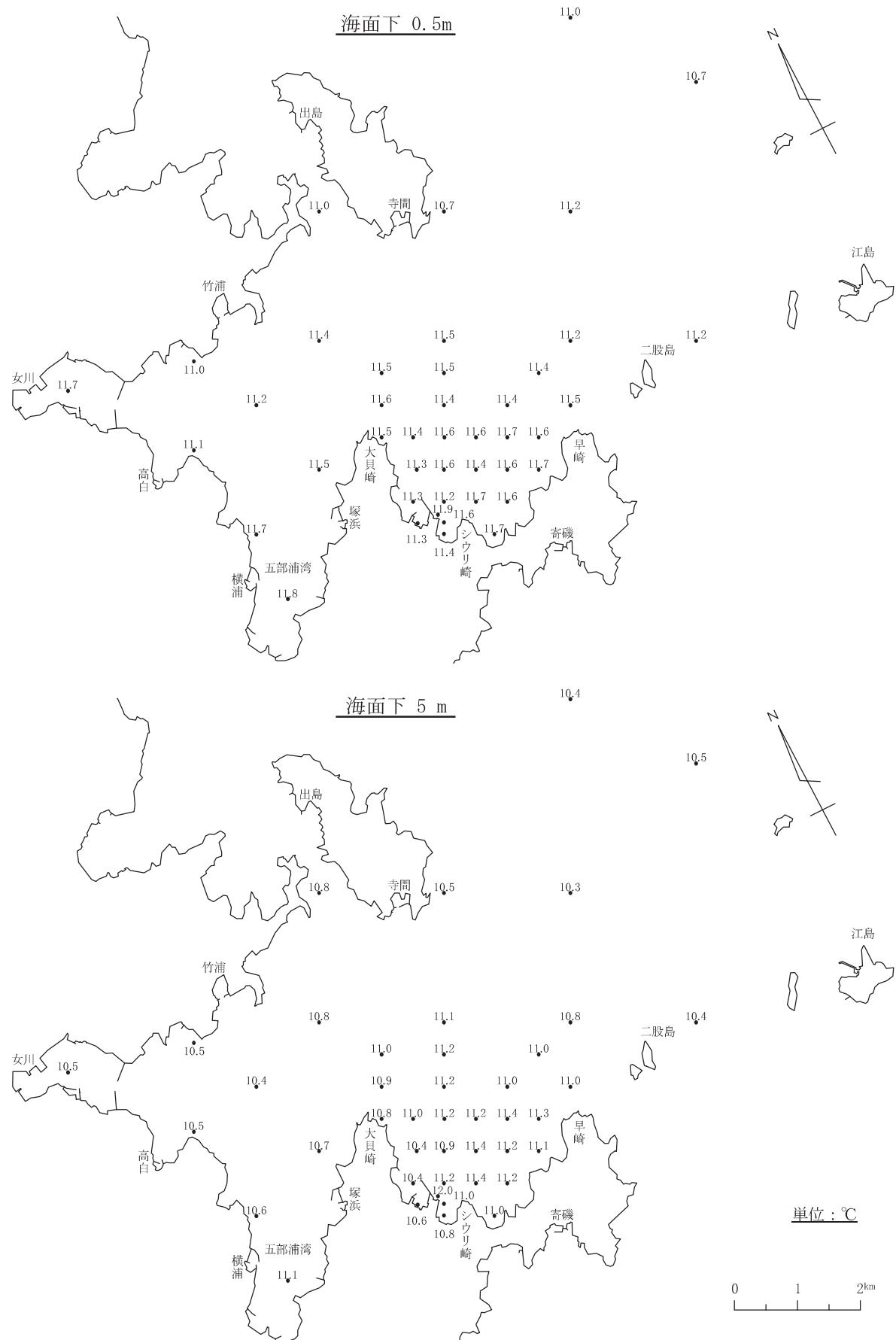
調査年月日：令和 7 年 4 月 9 日（干潮時） 測定者：宮城県

図-11-(1) 水温水平分布



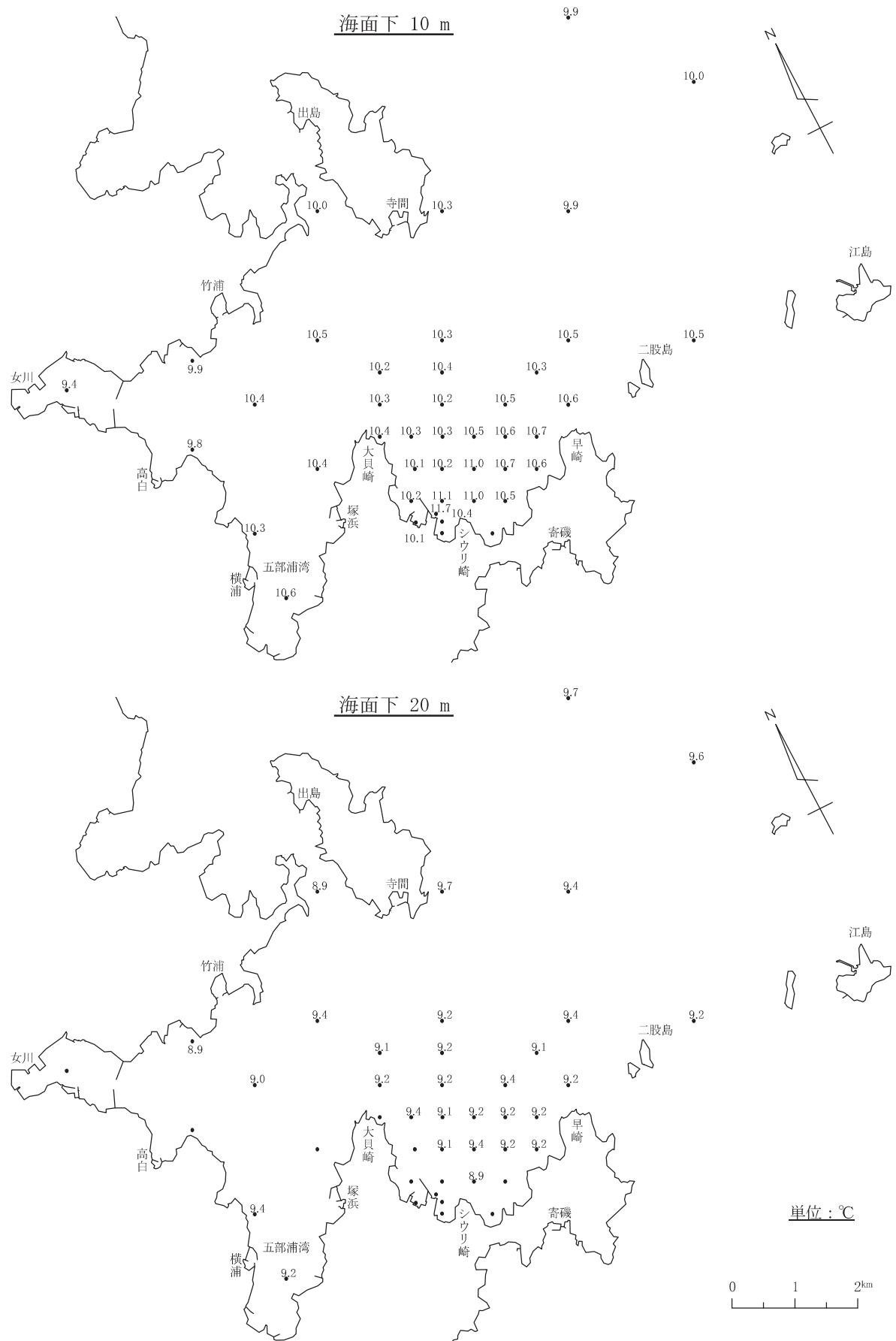
調査年月日：令和 7 年 4 月 9 日（干潮時） 測定者：宮 城 県

図-11-(2) 水温水平分布



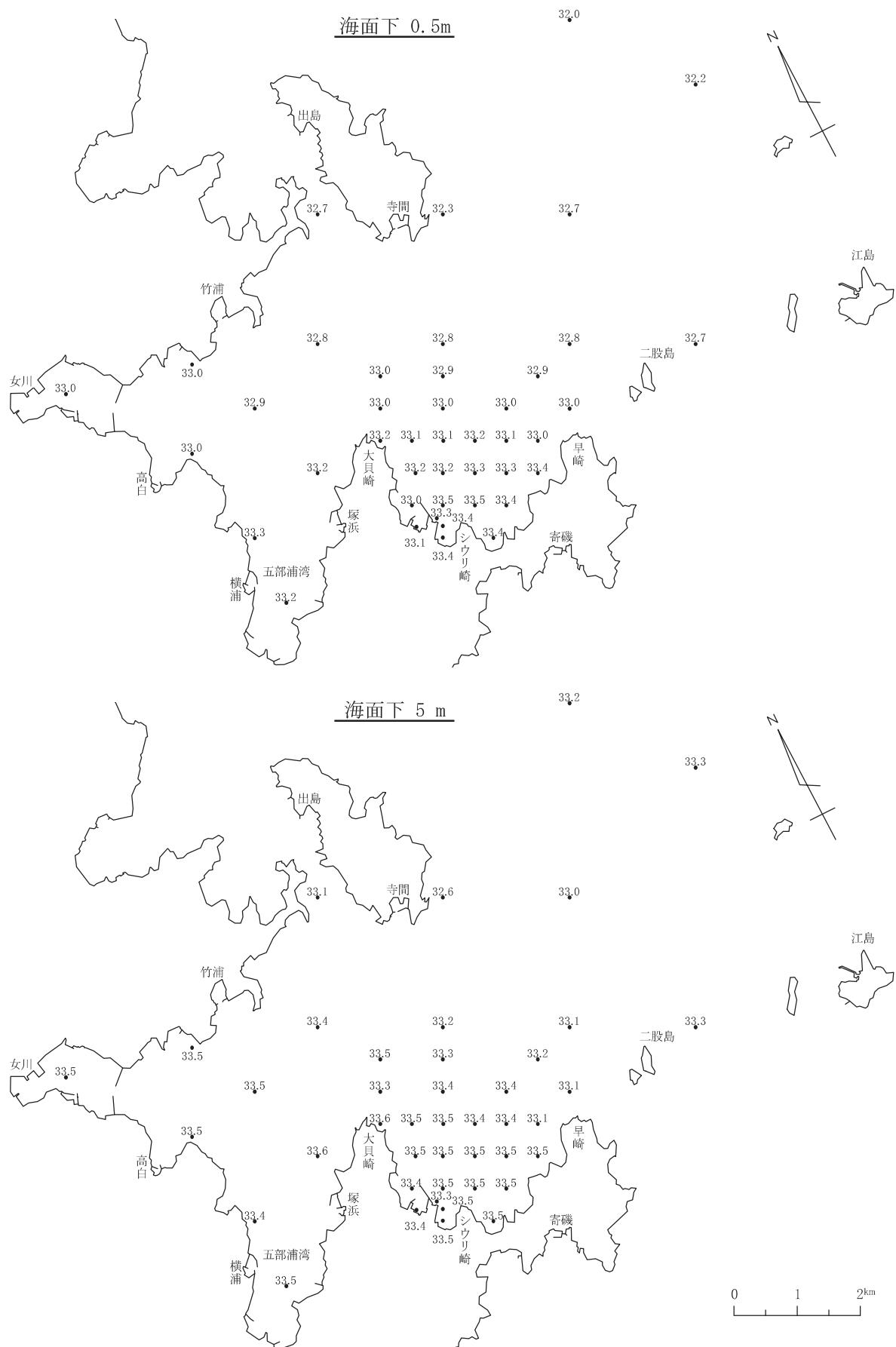
調査年月日：令和 7 年 5 月 13 日（干潮時） 測定者：東北電力

図-12-(1) 水温水平分布



調査年月日：令和 7 年 5 月 13 日（干潮時） 測定者：東北電力

図-12-(2) 水温水平分布



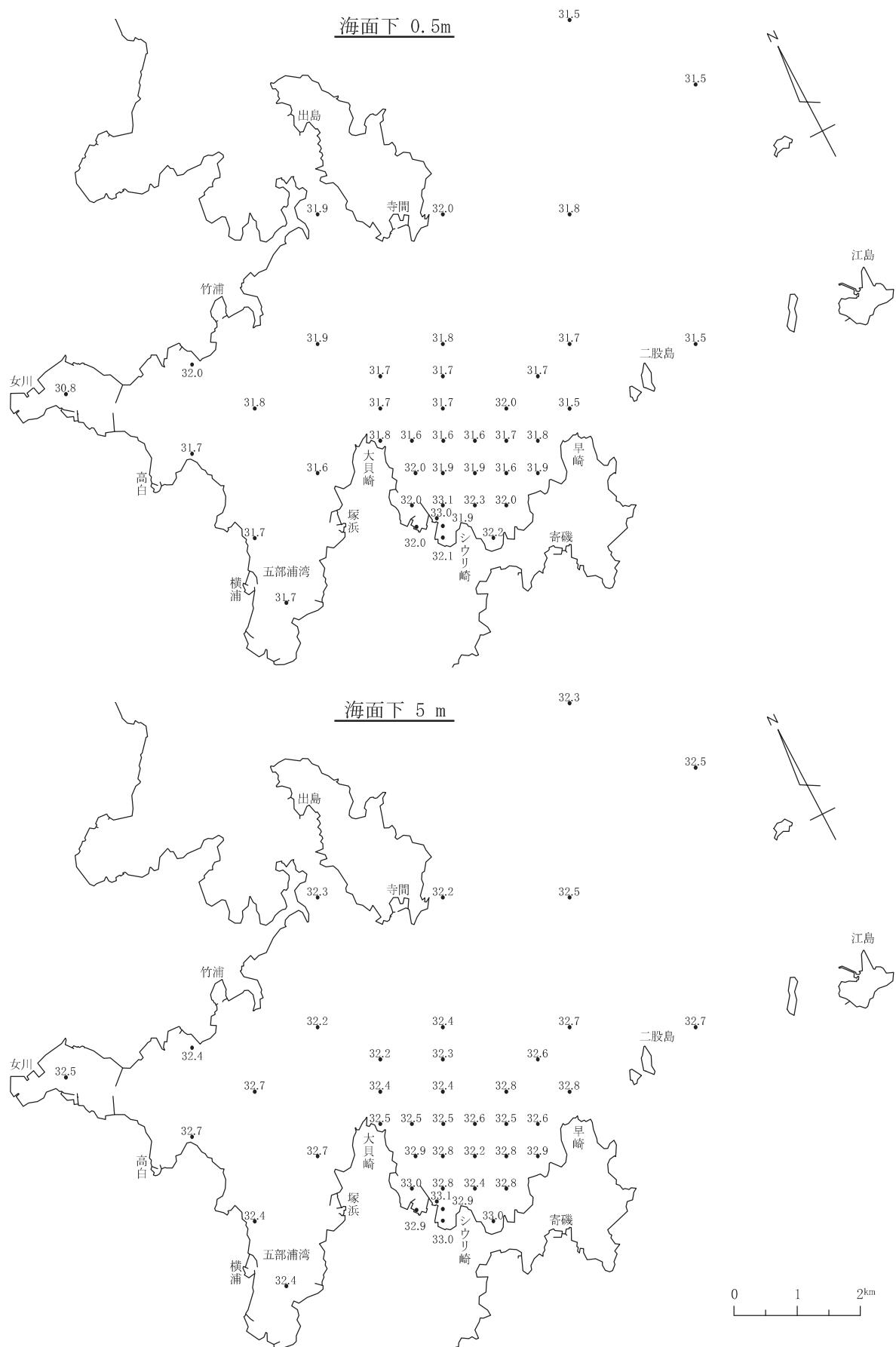
調査年月日：令和 7 年 4 月 9 日（干潮時） 測定者：宮城県

図-13-(1) 塩分水平分布



調査年月日：令和 7 年 4 月 9 日（干潮時） 測定者：宮 城 県

図-13-(2) 塩分水平分布



調査年月日：令和 7 年 5 月 13 日（干潮時） 測定者：東北電力

図-14-(1) 塩分水平分布



調査年月日：令和 7 年 5 月 13 日（干潮時） 測定者：東北電力

図-14-(2) 塩分水平分布

表-11 水温調査(モニタリング)

令和7年

注1 数値は、日平均である。
2 上・中・下旬の平均値は $\frac{\sum_{i=1}^n x_i}{n}$ で計算し、小数点以下第2位を四捨五入した。

